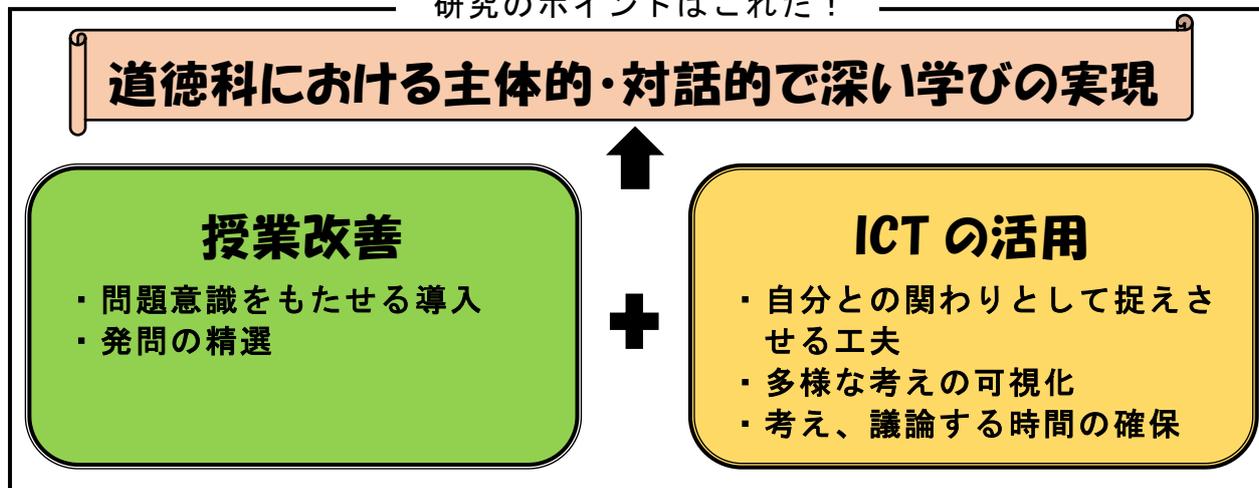


# 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する ICT の活用

## － 考え、議論する道徳の授業作りを通して －

みどり市立笠懸中学校 長谷川 直紀

研究のポイントはこれだ！



### 1 主題設定の理由

本校は令和元年度より一貫して、校内研修で「主体的・対話的に学ぶ生徒の育成」を研修主題とし、研修に取り組んできた。また、令和3年度には道徳教育総合支援事業の研究指定を受け、従来の「心情を読み取る道徳」から「考え、議論する道徳」への転換を図ってきた。

また、コロナ禍でのGIGAスクール構想の急速な進展により、様々なツールが利用できるようになったことで、これらを適切に活用して教育の質を向上させることが急務となった。また、ICTを活用するにあたり、それ自体が目的化してしまわないように従来の環境では実現できなかったICTの「よさ」を教師が十分に理解しておくことが大切であると考え対応してきた。

そこで、今年度はこれまでの実践を踏まえ、ICTを適切に活用することを意識した授業実践を重ねることが、「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

「考え、議論する道徳」の授業を展開するための授業改善に加え、ICTの適切な活用を加えることで、道徳科における主体的・対話的で深い学びを実現する。

### 3 研究の内容

道徳科における主体的・対話的で深い学びを実現するために、以下のような手立てを実践していく。

#### (1) 問題意識をもたせる導入

- ・道徳的価値について問題意識をもてるように、Google formを用いてアンケートを実施し、

即座に結果を提示することで、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりとして考えられるようにする。

#### (2) 発問の精選

- ・口答での確認にとどめる発問と記入（入力）する発問を精選することで、生徒がじっくりと考え、議論する時間を確保する。
- ・葛藤を生み出す発問や問い返しを工夫し、生徒の心に揺さぶりをかけることで、ねらいとする道徳的価値に迫れるようにする。
- ・ロイロノートの共有機能を活用し、自分の考えと他者の考えを比較しながら考えを深化させていく。また、他者の考えを即時に共有することで、従来の話し合い活動で必要であった発表の時間を短縮し、生徒が考え、議論するための時間を捻出する。

#### 4 実践の概要

- (1) 主題名「心の弱さを乗り越えるために」〔内容項目：D-(2 2)よりよく生きる喜び〕
- (2) 教材名「銀色のシャープペンシル」（教材：「新しい道徳1」東京書籍）

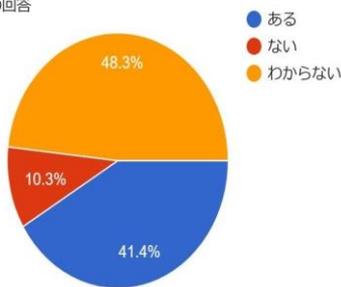
#### (3) ねらい

主人公の心の弱さに自分を重ね合わせる活動を通して、自分の心の弱さに向き合い克服していくことがよりよく生きる喜びにつながることに気づき、目指す生き方に近付いていこうとする実践意欲と態度を育てる。

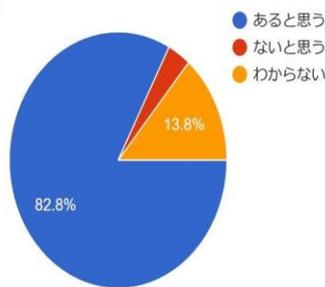
#### (4) 展開

##### 事前アンケートの結果

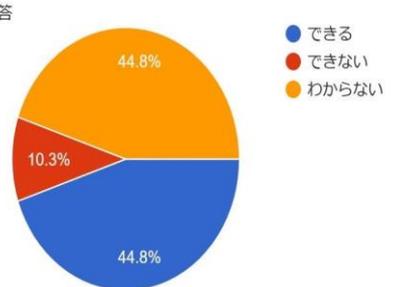
2. 自分の心に弱いところがありますか  
29件の回答



3. 心の弱さは誰にでもあると思いますか  
29件の回答



4. (自分は) 心の弱さを克服できるとおもいますか  
29件の回答



#### 【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 ○主な発問 ◎中心発問 ◇補助 予想される生徒の意識〔S〕	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <p>S：自分だけじゃなくて、誰にでも心の弱さはあるんだな。</p> <p>S：心の弱さを克服すると何が変わるのだろう。</p> <p>&lt;めあて&gt; 心の弱さを乗り越えるために大切なことは何だろうか</p>	<p>○ねらいとする道徳的価値について問題意識をもてるように、事前に行ったアンケートの結果を提示し、人は誰にでも心の弱さがあることに気付かせる。 【★提示】</p> <p>○授業の終末の場面で自らの考えの深まりを実感できるよう、事前に回答した「心の弱さを克服することはできると思うか」という問いに対する自分の考えを確認する。</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(10分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) 【★共</p>	<p>○本時の道徳的価値について意見の交流しやすくするために、ロイロノートのカー</p>

有】

◎「卓也が電話で謝ってきたとき、あなたなら本当のことを言えますか。それとも黙っていますか。」

本当のことを言う（良心優位）

S：今更かもしれないけど、卓也をだましてるように申し訳ないから正直に言おうと思う。

S：もう嘘はつきたくないから言う。

S：謝った方がいいと思うから。

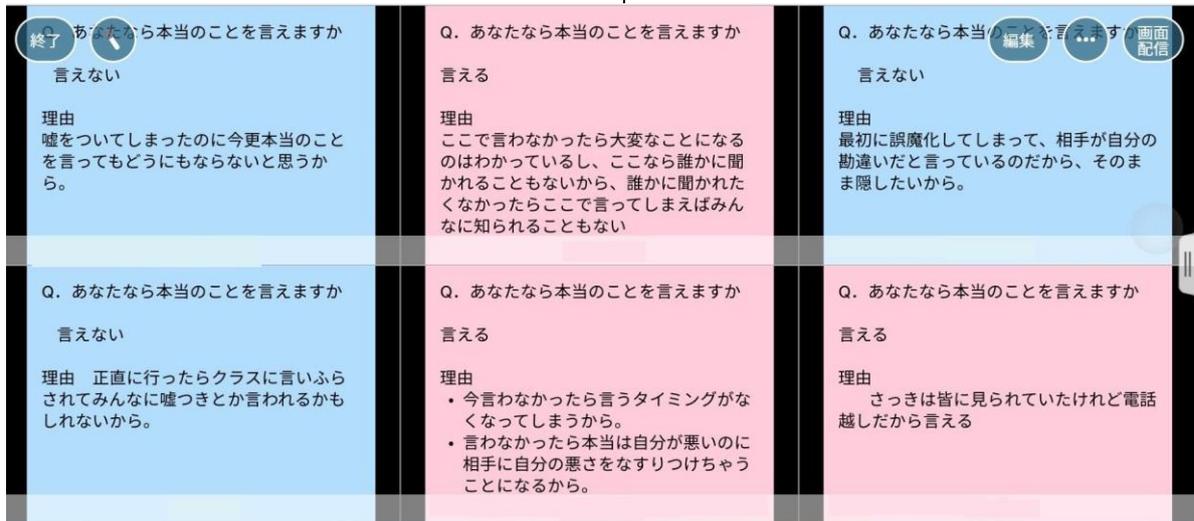
黙っている（心の弱さ優位）

S：今更自分が盗ったなんて言えないな。

S：本当のことを言ったら、嘘つきって思われてしまうかもしれないな。

S：卓也は自分の勘違いだと思っているのだから言わなくてもいいな。

【生徒に共有された画面】



◇「謝られた卓也はどんな気持ちになるだろうか。」

S：なんでもっと早く言わないんだ。ずるいぞ。

S：みんなに嘘つきって言いふらしてやる。

S：正直に言ってくれてありがとう。

◇「友人関係が壊れてしまうかもしれないのに、どうして主人公は謝ろうと思ったのだろうか。」

S：言わなければ友達でいられるかもしれない

ドを使い、発問に対する自分の考えと理由を端的に入力させる。

○主人公が心の弱さと自責の念の間で揺れ動く様子に自我関与できるよう、自分がどれくらい共感できるかによってカードの色を変えて入力させる。

桃：本当のことを言う（良心優位）

青：黙っている（心の弱さ優位）

○本時のねらいとする道徳的価値について自分の考えと友達のことを比較することで、違う立場の意見について理解を深められるように、提出されたカードを画面共有する。 【★一覧表示】

○提出された意見が単に謝った方がいいという意見に偏った場合は、心の弱さが優位になる理由や、正直に謝ることによって起こりうる影響に気付かせるために、「主人公はこれまでどうして言えなかったのか」について考えさせる。

○本時の道徳的価値の実現の難しさに気付かせるために、補助発問として「謝られることで卓也はどのような気持ちになるか」を想像させる。

○本時のねらいとする道徳的価値に迫れるように、単に謝る、謝らないといった正直さに留まらず、主人公の生き方に目を向けられるよう促す。

<p>けど、嘘をついたままでは、卓也とこれまでと同じようには付き合えないと思ったから。</p> <p>S：卓也は逃げずに言ってくれたのに、自分だけ逃げてちゃいけないと思ったから。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。(10分)</p> <p style="text-align: right;">【★共有】</p> <p>S：自分の非を認めるのは勇気がいるけど、大切なことなんだな。</p> <p>S：いつも正しいと思う方を選べるのが心の強さなのかな。</p>	 <p>○今回の授業での学びを実感できるよう、導入の場面での自分の考えと比較するよう促す。</p> <p>○多様な考えに触れ、価値理解が深まるよう、提出されたカードを画面共有する。</p> <p style="text-align: right;">【★一覧表示】</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや、考えの振り返りをする。(5分) 【★提出】</p>	<p>○本時のねらいとする道徳的価値に対する思いや考えを深められるよう、「これまでの自分」「授業を通して気付いたこと」「これからの自分」の三つの視点を意識するよう促す。</p>
<p>&lt;振り返り&gt;</p> <p>S：今までの自分は、自分が悪くてもそれを認められなかったり、人のせいにして正直に謝れないことがあった。でも、他の人の考えを見たり聞いたりして、逃げずにその弱い心を克服しようとするのが、よりよく生きるために大切なことなんだと今日の授業で思った。</p>	

### ○生徒の振り返り

振り返り  
視点：「これまでの自分」  
「授業を通して気付いたこと」  
「これからの自分」

---

これまでの自分は間違いがあっても勇気がなく言い出すことができずにもやもやしてしまっていたし自分に正直になることができていなかったなと思った。  
授業を通して悩んでいるときは自分のことしか考えずに相手のことを考えないで悩んでいることがわかった。  
これからは自分の行いをきちんと見極めて自分に正直になって相手にも正直に接することが大事とわかったからそれらを活かして正直になっていきたい。



振り返り  
視点：「これまでの自分」  
「授業を通して気付いたこと」  
「これからの自分」

---

今までの自分は謝ることが苦手で直接は謝れなく、誰かを通してしてもらったりだとか、連絡で謝ったりしていたけれどちゃんと正直に対面で謝れるように少しでもしていけたらいいと思った。  
勇気や自分の気持ちに正直になることが大切だと思いました。



### 5 研究の成果と今後の課題

#### (1) 問題意識をもたせる導入

○Google formを用いて道徳的価値についてのアンケートを実施し、その結果からめあてを設定したことは、ねらいとする道徳的価値について問題意識をもたせるのに有効であった。

●アンケート結果で「分からない」と回答する生徒が多かった。今回の実践では「心の弱さ」とは何かをイメージできていないために「分からない」と回答する生徒が多くみられたため、具体例を示すなど、生徒がしっかりとイメージできるような工夫が必要である。

#### (2) 発問の精選

○発問を精選し、口答での確認にとどめる発問と記入（入力）する発問を明確にすることで、生徒が考えたり、議論したりする時間を捻出することができた。

●考え、議論する時間が捻出できた分、本音を引き出す発問や葛藤を生み出す発問、問い返しを工夫し、生徒の心に揺さぶりをかけることで、ねらいとする道徳的価値に迫れるようにすることが必要であると感じた。

#### (3) ICT の活用

○ロイロノートの共有機能や、意見の色分けをしたことは、自分とは違う視点の意見に触れ、考えを深めるために有効な手立てであった。

●タブレット端末に自分の考えを入力する際に、タイピングの速さに個人差が生じてしまった。今回の実践では全ての生徒が入力を完了するのを待っていたが、展開に応じて、意見の色分け程度にして話し合いに移行するなどの工夫が必要である。

●今回の実践では、生徒の心の変容をみとるためには、提出された振り返りの文脈から想像することしかできななかったが、ハートメーターや心の数直線などのツールを活用することで、生徒自身も授業の中で自分の心がどのように変化していったのかが分かりやすくなると感じた。

## 6 参考文献

### 【教材資料・出典】

・『新しい道徳1』東京書籍

### 【参考資料】

・『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』文部科学省

・『はばたく群馬の指導プランⅡ』ICT活用 version 群馬県教育委員会

・『はじめよう！道徳科』群馬県教育委員会

・『ふかめよう！道徳科』群馬県教育委員会

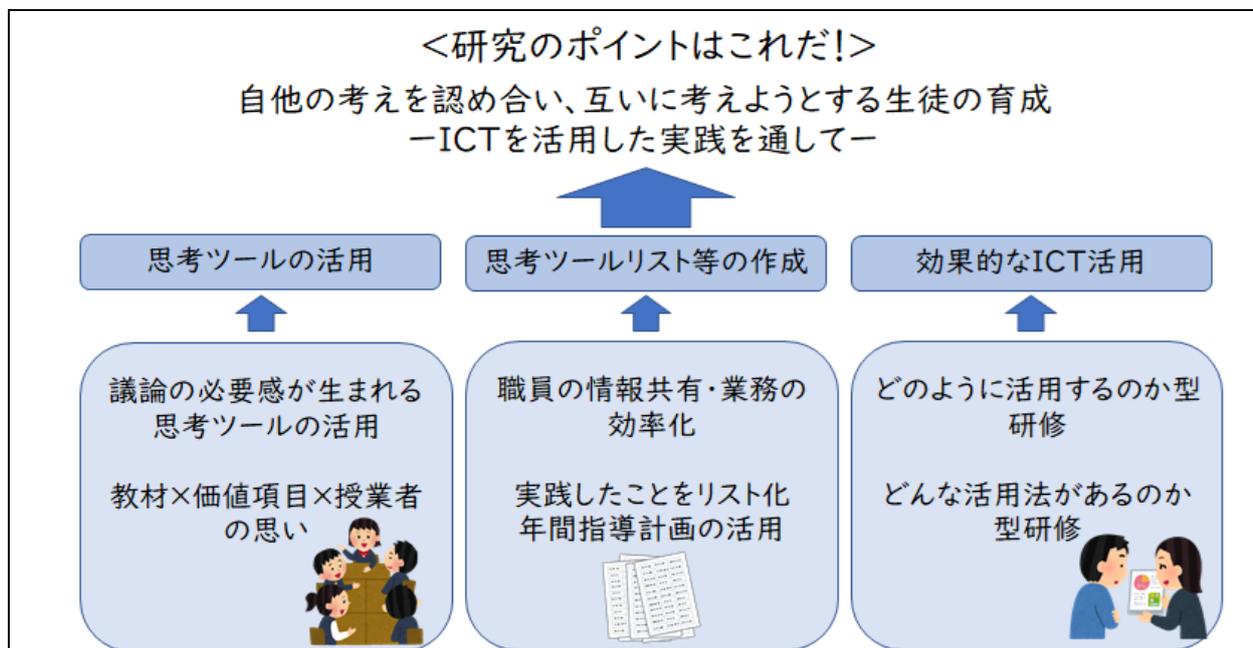
・文部科学省「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について」（整理案）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/111/shiryo/\\_icsFiles/afiel\\_dfile/2016/02/04/1366380\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/111/shiryo/_icsFiles/afiel_dfile/2016/02/04/1366380_1.pdf)

# 自他の考えを認め合い、互いに考えようとする生徒の育成

## ーICTを活用した実践を通してー

沼田市立沼田西中学校 見城 由昭



### 1 主題設定の理由

令和6年度の学校教育の指針によると、「全教育活動を通じた特色ある道徳教育の推進」とした上で、「道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し」について、全教職員による共通理解の下、組織的で一貫した道徳教育の推進を掲げている。また、「特別の教科道徳の充実」については、全教育活動を通じた道徳教育との関連を図った考え・議論する道徳への授業改善を掲げている。本校では、学年職員によるローテーション授業を実施しているため、全体計画及び指導計画を作成して指導に当たっているが、考え議論する道徳について職員同士で授業参観する機会を設けることが難しく、各職員の指導力に委ねている状況である。

また、今年度の校内研修では、「自己の考えを深め、表現できる生徒の育成～各教科における思考の共有と整理を取り入れた活動を通して～」をテーマに研修を進めている。具体化した生徒像として、「自他の考えを視覚化することで共有し、比較・分類などの整理を通して、自分の考えを広げ表現することができる生徒」としている。各教科の授業の中で、ICTを効果的に活用しながら、思考ツールを用いたり、授業者が工夫した方法を用いたりして思考を可視化し、考えを深め表現することを目指している。

そこで、校内研修で積み上げてきた実践を生かし、効果的なICTの活用や思考ツールの活用を通して「考え・議論する道徳」の実現ができると考え、本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

自他の考えを認め合い、互いに考えようとする生徒を育成するために、ICTの効果的な活用や思考ツールの活用を通して、「考え・議論する道徳」の実現に向けた授業改善を図る。

### 3 研究の内容

- (1) ICTの効果的な活用
- (2) 校内研修とリンクした思考ツール活用例の作成、職員による指導実践の共有・整理
- (3) 道徳の公開授業に向けた指導案検討及び授業実践

#### 4 実践の概要

##### 授業実践

内容項目 B(3) 礼儀 教材名 「挨拶しますか、しませんか」

<使用したツール>ステップチャート <思考方法>順序、様々な立場から意見をまとめる  
本時の学習

導 入	<p>1. 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <p><b>&lt;めあて&gt;</b> 時と場に応じた挨拶の意義とは何だろう</p> <p>S：集団での挨拶はいい加減になっているかもしれないな。</p> <p><b>Q1 朝の登校時に、誰にでも気持ちのよい挨拶をすることができますか</b></p> <table border="1"> <caption>ロイロノートのアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>しっかりと声を出して挨拶できている</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>声が小さくなってしまう時がある</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>できていない</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	回答内容	人数	しっかりと声を出して挨拶できている	14	声が小さくなってしまう時がある	19	できていない	0
回答内容	人数								
しっかりと声を出して挨拶できている	14								
声が小さくなってしまう時がある	19								
できていない	0								
展 開	<p>2. 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3. 教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p><b>◎「挨拶にはどんな力があるのでしょうか。」</b></p> <p>S：知らない人同士でも、相手を温かい気持ちにする力</p> <p>S：疲れていても一緒に励まし合うことができる力</p> <p>S：仲間意識を生み出す力</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-right: 10px;">             自分の存在の表現 人間ができる最も基本的なコミュニケーション         </div> <div style="margin-left: 20px;"> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>使用した思考ツール</b></p> <p><b>◇「実際の学校生活の場面における挨拶には、どのような力があるのでしょうか。」</b></p> <p>S：苦手な教科でもみんなできようとする力</p> <p>S：西中の一員であるという意識を生み出す力</p> <p>4. 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。</p> <p>S：共通しているのは、仲間という意識をもつことやお互いに励まし合う気持ちをもつことだと思う</p>								



映像・写真資料の提示

終末

5. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

<振り返りより>

S：今までは疲れていたり嫌なことがあったりした時の朝の挨拶や、苦手な教科での挨拶が無意識のうちにしっかりとできていなかったかもしれない。挨拶には相手だけでなく、自分を励ますという意義があると感じた。これからは自分や相手のために場に応じた挨拶をしていきたい。

その他の実践

(1) 思考ツールを活用した授業実践例

題材名	内容項目	使用したツール	思考方法
裏庭での出来事	自主、自律、自由と責任	座標軸	比較、分類
いっぱい生きる 全盲の中学校教師	よりよく生きる喜び	ピラミッドチャート	構造化
ネット将棋	自主、自律、自由と責任	矢印と囲み	関係づけ、理由付け
ふと目の前に 森繁久彌		熊手チャート	違う立場に立って多面的に考える

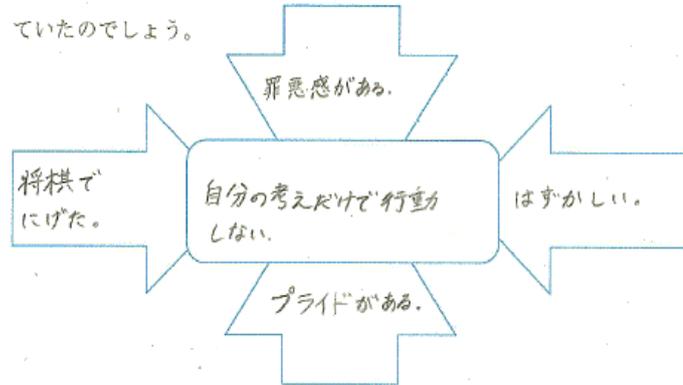
本校は学年職員によるローテーション授業を行っている。学年職員に思考ツールの使用を呼びかけ、実践例をまとめていった。

「ネット将棋」では矢印と囲みを用いた自作のツールを使用して、主発問に対しての生徒の考えを囲みに書かせ、矢印に根拠を書かせた。これを基にしてグループにて話し合いをさせた。

その他にも題材によって校内研修で研修を進めている思考ツールを使用したり、それらを改良して自作の思考ツールを作成したりする職員もいた。「ネット将棋」の思考ツール

9月25日 1年1組 番名前

1. 明子と智子の笑い声を聞きながら、笑えなかった「僕」はどのように考えていたのでしょうか。



2. 今日の授業で感じたことを書きましょう。

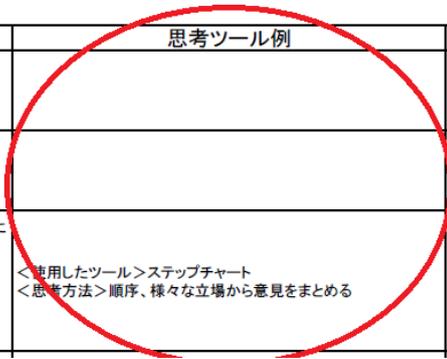
・過去にとちうでにげたり、やめたりしたことはないけれど、今後しないように、人の考えも取り入れて行動するようにしたいです。

(2) 思考ツールを用いた実践の共有  
 学年職員による授業実践を行い、  
 これまで蓄積されていた授業構想シ  
 ートに「思考ツールを使って考えを  
 を広げ深めるための手立て」という項  
 目を追加し、使用するツールと使用  
 目的を記入した。

(3) 年間指導計画への位置づけ  
 実践したことを年間指導計画の一  
 部に「思考ツール例」として記入し  
 ていき、職員全体で共有を図った。

展 開	・中心発問につながる発問
	⑦発問： 勝てると思っていた相手に強い詰められた僕が負けなかったのに取った行動について考えよう。 発問：
	・自分事として考え、議論するための中心発問（考えを広げ深めることにつながる発問）
	④「僕」が笑えなかった原因は、敵和にあるのか、僕にあるのか？ 笑えなかった原因を考えよう。 ・議論等によりふれさせたい多様な考え（出してほしい意見）
	⑤・「僕」は自分と向き合えていない。 ・ネット将棋を勝手にやめてしまうなど自分勝手さがある。 ・自分の幼さが、自分の力を今一步伸ばさせていない。 ・正々堂々と相手と向き合うことが大切。 ・戦う相手を尊重する気持ちをもつ。 ・問い返し（本音を引き出すための）
⑧部活動やクラブ活動での負けた経験と、その後の行動を振り返って考えてみよう。	
・思考ツールを使って考えを広げ深めるための手立て	
⑨「矢印と囲み」を使って、自分の意見の理由を明らかにして議論する。	
・今までの自分を見つめさせる発問（自分事として捉える）	
⑩ 学校生活の中で、自律した行動とは、どのようなことが考えられるか？	

構想シートの例「ネット将棋」

主な発問	思考ツール例	教材類型
①配属先を見て「目の前が真っ暗になった」主人公はどんな気持ちでしょう。 ②チャック氏が言った言葉に対して、「僕」はどうして不安を感じたのですか。 ③掃除を不本意な仕事と感じていた主人公が前向きになったのは、なぜでしょう。 ④掃除の神様が教えてくれたことは何でしょう。		ノンフィクション
①赤ちゃんの誕生を、みんながうれしい出来事として笑顔で受け止めているのはなぜでしょう。 ②助産師さんがおなかに乗せてくれたときの母の気持ちを考えましょう。 ③今、こうしてこの世に生きていて、この中学のこのクラスでみんなと出会えたことを、どう感じるでしょう。 ④生命の大切さを感じたことはあるでしょうか。それはどんなときだったでしょう。		生活文
①「朝の挨拶」で、知らない人と久しく用事もなく挨拶を交わすことのなかった男性が、「宿泊先に戻ろうとする頃には、私のほうから先に挨拶をする気持ちにもなっていた」のはなぜでしょう。 ②「山での挨拶」で、女性は「こんにちは」の挨拶を交わすマナーを「ちょっと骨が折れる」と思っていたのに、集団を前にしたら「私から「こんにちは」と切り出してみよう」と思えたのはなぜでしょう。 ③「禁止された挨拶」で、男性の考える「挨拶をしない」暮らしとはどんな暮らしでしょう。 ④それぞれの話について考え、挨拶の意義についてまとめてみましょう。 ⑤挨拶にはどんな力があるでしょう。		生活文

年間指導計画の思考ツール例

## 5 研究の成果と今後の課題

### 授業実践

〔成果〕

- ロイロノートを使用した導入時のアンケートでは、実態を把握し問題意識をもたせるために効果的であった。また、終末の場面等でアンケート結果を振り返ることもでき、生徒一人一人の回答を踏まえて意図的な指名をすることにもつながった。
- 思考ツールは本時の展開に合ったものを使用することで、道徳的価値について自分の考えを整理することにつながった。意図的に短い言葉で入力させたため、ほとんどの生徒が自分の考えを入力することができた。また、短い言葉でまとめているため、話し合う場面では自分の思考の流れを説明する必要が生じるため、話し合いが活発になった。
- 「実際の学校生活における挨拶には、どのような力があるのでしょうか」という発問の場面では、その日の実際の様子に吹き出しをつけた映像・写真資料として配信した。その写真と吹き出しを見ただけで生徒の思考が活性化し、広がっている様子が見られた。教材以外にICTを活用したことにより、多面的・多角的に考えさせることができた。
- 思考ツールを使用することで、多種多様な考えが出てくるが多くなった。多面的・多角的に思考を広げたい時には有効な手立てだった。

〔課題〕

- 授業者が想定していなかった考えに対して効果的な支援をすることができなかつたため、思考ツールを用いて何を考えさせたいのか焦点化したり、どの場面で使用するのかを吟味したりする必要があった。
- 本時では、望ましい挨拶と分かっていたいても実際にはできない自分の弱さに向き合うよう発問するとさらによかった。ICTの活用はあくまで手立てであり手立てとして何を問うのかについては常に考える必要がある。

その他の実践

〔成果〕

- 実践したことを蓄積していくことで、職員同士で情報交換をしたり、教材研究をしている職員に対してどんな思考ツールを使えばよいのか助言したりすることができた。今年度は部分的に実践例が蓄積されているため、積み重ねていくことで学校の財産になると感じた。
- ICTの活用法については、どんなソフトを使うのかという視点でこれまでの研究が進んでいたように感じるが、今後は使う授業者のアイデアを含めてどのように使うのかという実践を積み重ねていくことが有効であると感じた。

〔課題〕

- 指導する内容や価値項目、教材によって有効なツールとそうでないツールがあるため、教材研究をする過程で必要に応じて思考ツールを活用する必要があった。また、思考ツールを用いてどのようなことを考えさせるか、そのツールを用いてどのように議論させるのかというツールと発問の関係に留意して教材研究を行う必要があった。

6 参考文献

『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』文部科学省（平成29年）

『はばたく群馬の指導プランⅡ』群馬県教育委員会（令和元年）

『はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用 version』群馬県教育委員会（令和元年）

# 自己の生き方を考え、他者とともによりよく生きようとする

## 生徒を育む道德教育の創出

### — ICTを通して多面的・多角的な視点を取り入れた授業実践 —

甘楽町立甘楽中学校 清水 千鶴

#### < 研究のポイントはこれだ！ >

#### 校内研修主題「自ら学びをつくり、行動し続ける自律した学習者の育成」

～教科横断的な学習を通じた思考力の向上を目指して～



#### 1 研究主題設定の理由

本校では今年度、校内研修で「自ら学びをつくり、行動し続ける自律した学習者の育成」を主題とし、教科の枠を超えて、教科横断的な学習を通じた思考力の向上を目指すことが計画されている。その中で道徳科の教材から教科横断的な学習を取り入れることは容易ではない。しかし、ICT の導入は他教科で多く取り入れられているため本校の強みであり、他者を取り入れるためのツールとして活用することで主題設定への達成を図ることができるのではないかと考える。

#### 2 研究のねらい

本校で共通で使用している「ポートフォリオ」を毎回の授業の蓄積として使用することを授業の基本とし、教師が作成したワークシートや道徳の内容に関連する他教科の教材を用いることで校内研修の主題に沿った授業を行っていくこととする。その際、生徒間の意見交換や考えのまとめとしてICTを活用することで、自分の考え以外の多面的・多角的な考えを取り入れ、実践する道徳の授業を通して自分の生活にブレイクダウンしていけるようにする。

#### 3 研究の内容

今年度から導入した①ポートフォリオと②教師が作成したワークシートを常時道徳の授業で活用し、単元の内容によって③他教科の教材と関連付けて授業を実践していくものとする。話し合いや意見集約のツールとして④ICT を活用することで、他者の意見を取り入れながら新たな視点や他教科との関連性に気づき、学習の観点を多面的・多角的に考えられる生徒に近づけるものとする。

#### 4 実践の概要

##### (1) 教材について

- ①教材名 「10 みんなで成功させよう」【指導内容 学校生活、集団生活の充実 C(15)】  
(出典 光村図書「中学道徳1」)

##### ②授業のねらい

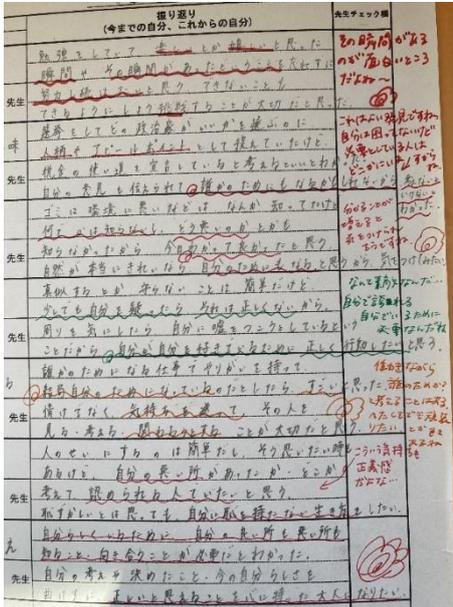
集団での活動を充実させるためには、お互いのやりとりや言葉掛けでどのようなことが大切か考えられるようにする。

##### (2) 研究の実践とその成果

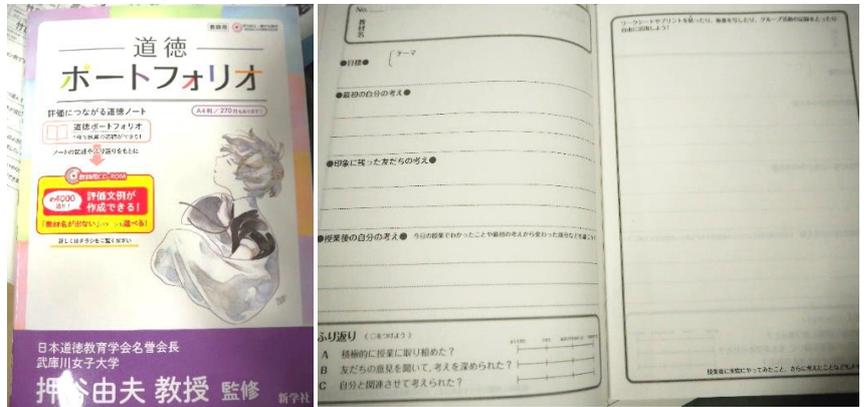
##### ① ポートフォリオの活用

昨年度までは 1 枚のプリントに蓄積する形をとっていたが、紛失や記述欄の不足や使用した教材(教師が準備したワークシート)と比較しづらさが課題として挙げられていた。そのため、本校では今年度から全学年共通で 1 冊のノート「道徳 ポートフォリオ」を準備し、毎時間の振り返りをノートに行えるようにした。

【資料1】昨年度までのポートフォリオ



【資料2】今年度使用しているポートフォリオ



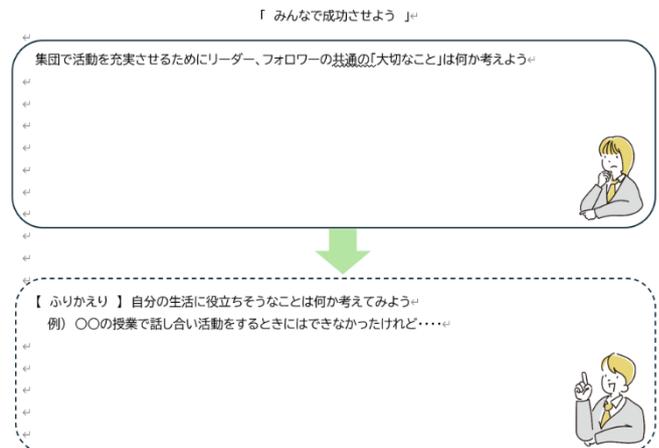
- <利点> 冊子になっているため、保管が容易である。
- 見開き 1 ページに 1 単元を集約することができる。
- 生徒自身が自主的に振り返りを行う際にも容易に振り返りが可能。

例) 左のページに教材名やテーマ、意見を記入し、右のページに使用したプリントを貼って保管することができる。

##### ② ワークシートの活用

昨年度は担任、副担、主任によるローテーション道徳だったが、今年度は学級担任が自分のクラスで道徳を行う方針となった。授業のまとめや振り返り、意見の集約など担任裁量により型は自由とした。生徒の実態に合わせて教師が作成し、ワークシートを活用した。(【資料3】参照) 学習アプリ(ロイロノート)で意見の集約や交換、補助発問等の記述しているため、ワークシートには感想や他者の意見を取り入れた多角的・多面的な視点の記述のみとした。1 年生にとっては単元の内容を振り返る際に手元の資料が精査されているため理解するためには効果的であった。

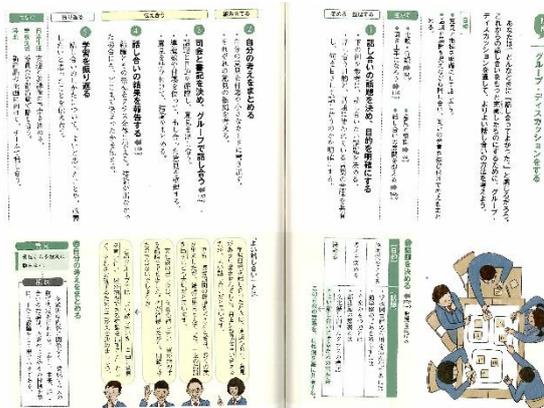
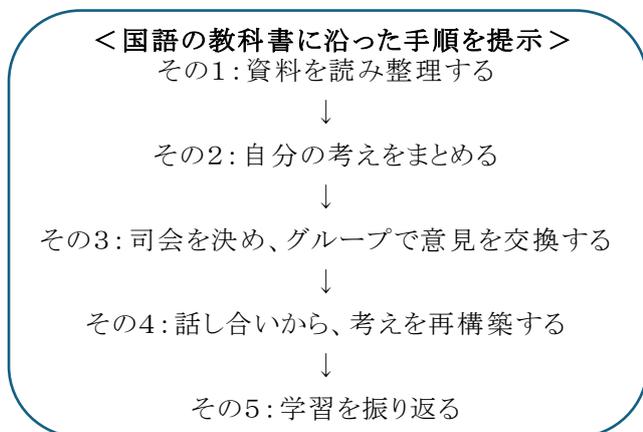
【資料3】ワークシート(一例)



### ③ 他教科との関連性

教材「10 みんなで成功させよう」では、学びのテーマとして「集団での活動を充実させるためには、どんなことが大切なのだろう。」となっている。主人公(リーダー)の信悟と集団を取り巻くクラスメイト(フォロワー)の立場になって、それぞれの意見を考えなければならない。そのため、既習事項である国語の単元「話す聞く 話し合いの展開を捉える」と関連させながら授業を実施した。

【資料4】国語1「話題や展開を捉えて話し合おう」



### ④ ICT の活用

始めに物語を読み、中心発問では学習アプリ(ロイノート)を活用してテキストを生徒に配付し、物語を読んだ後に自分の考えをまとめる時間を設けた。(【資料5】【資料6】参照)

生徒に整理し、まとめるための十分な時間を設けたが、考えや読み取りが難しかった様子が見受けられた。(【資料7】参照)

次にグループで司会を決め、どのような意見があったか交流をさせた。(【資料8】参照) 電子黒板に国語の教科書を提示し、国語の既習事項を想起させることで要点の整理や他者の意見で重要な語句を追記できるように促すことで意見が出なかった生徒に意見の変容が見られた。(【資料9】参照)

また、授業内の会話で「国語の授業の時はこの意見の集約までが大切だったけど、道徳では更に文章から主人公の立場から考えて私だったら・・・」など教科を横断し、自分事に捉えて発言する生徒が多く見られた。普段、文章で表現できない生徒も ICT を活用することで整理することが容易な生徒が多かった。

【資料5】配付テキスト



【資料7】個でまとめた内容



【資料9】意見交換後の内容



【資料6】個でまとめている様子



【資料8】意見交換の様子



## 5 研究の成果と今後の課題

道徳科の ICT 導入は、単元の内容や教師間の考えの相違によって使用頻度の差や難しさがあると考ええる。すべての単元に ICT を導入する必要性はなく、精査していくべきである。しかしながら、研究の成果で ICT を活用することはクラス全体の意見共有や生徒が修正しやすい、意見を取り入れやすい等、紙面に文章化することが難しい一定数の生徒にとって良い効果が見受けられた。(【資料10】参照)

また、ICT はあくまでツールの 1 つとして捉え、多くの生徒がワークシートに自分の意見と他者の意見を見ながら、自分の生活に当てはめて考えることができていた。(【資料11】参照)

自分の生活から「次は〇〇の授業で国語の手順を思い出ししながら、道徳での考えを生かしていきたい。」などの自立した学習を意識した生徒がいたことが大きな成果として挙げられる。

校内研修の主題である他教科との関連性を持たせることについては、道徳の教材によって難しさはあるが今回の単元においては、グループ活動における話し合いの円滑化を促す手段として妥当であり、生徒にとっても行動に移しやすいものであった。

今後の課題として生徒の実態に合わせた教材を精査していくことが重要であり、本校の職員が全員同一歩調で授業を進めていけるような体制づくりが必要と考える。その際、校内研修部と協力し、学校全体で道徳科の研修を行う機会が増えると職員間の指導技術の向上につながり、各教科に含まれる道徳的価値を意識、共通理解、情報交換ができる機会を設けていきたい。

### 【資料10】クラス全体の意見共有



### 【資料11】生徒の振り返り(一部抜粋)

「みんなで成功させよう」

集団で活動を充実させるためにリーダー、フォロワーの共通の「大切なこと」は何か考えよう  
協力し合う、人任せにしない、進行状況を確認



【ふりかえり】自分の生活に役立ちそうなことは何か考えてみよう  
例) 〇〇の授業で話し合い活動をするときにはできなかったけれど……

話し合いの時、自分よりよくなる人がいると人任せにしていたけど自分の意見をしっかりと伝えて話し合いに参加しようと思った。



「みんなで成功させよう」

集団で活動を充実させるためにリーダー、フォロワーの共通の「大切なこと」は何か考えよう  
協力し合う  
人任せにしない  
進行状況を確認する



【ふりかえり】自分の生活、ほかの授業の中で役立ちそうなことは何か考えてみよう  
例) 〇〇の授業で話し合い活動をするときにはできなかったけれど……

国語の授業でたくさん決めるときに自分の意見を言えなかったけど、リーダーとしても意見を言った方が良かったので、これからはいきたいと思います。



## 6 参考文献

### 【教材資料】

光村図書「中学道徳1」  
進学社「道徳ポートフォリオ」  
光村図書「国語1」

### 【参考資料】

埼玉県教育委員会 道徳教育指導資料集  
「匠の技」～ここから始めよう！道徳教育(中学校)～

→ <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/26969/takumi-tyuugakkou4-3.pdf>

三重県教育委員会 特別の教科道徳(道徳科)の目標

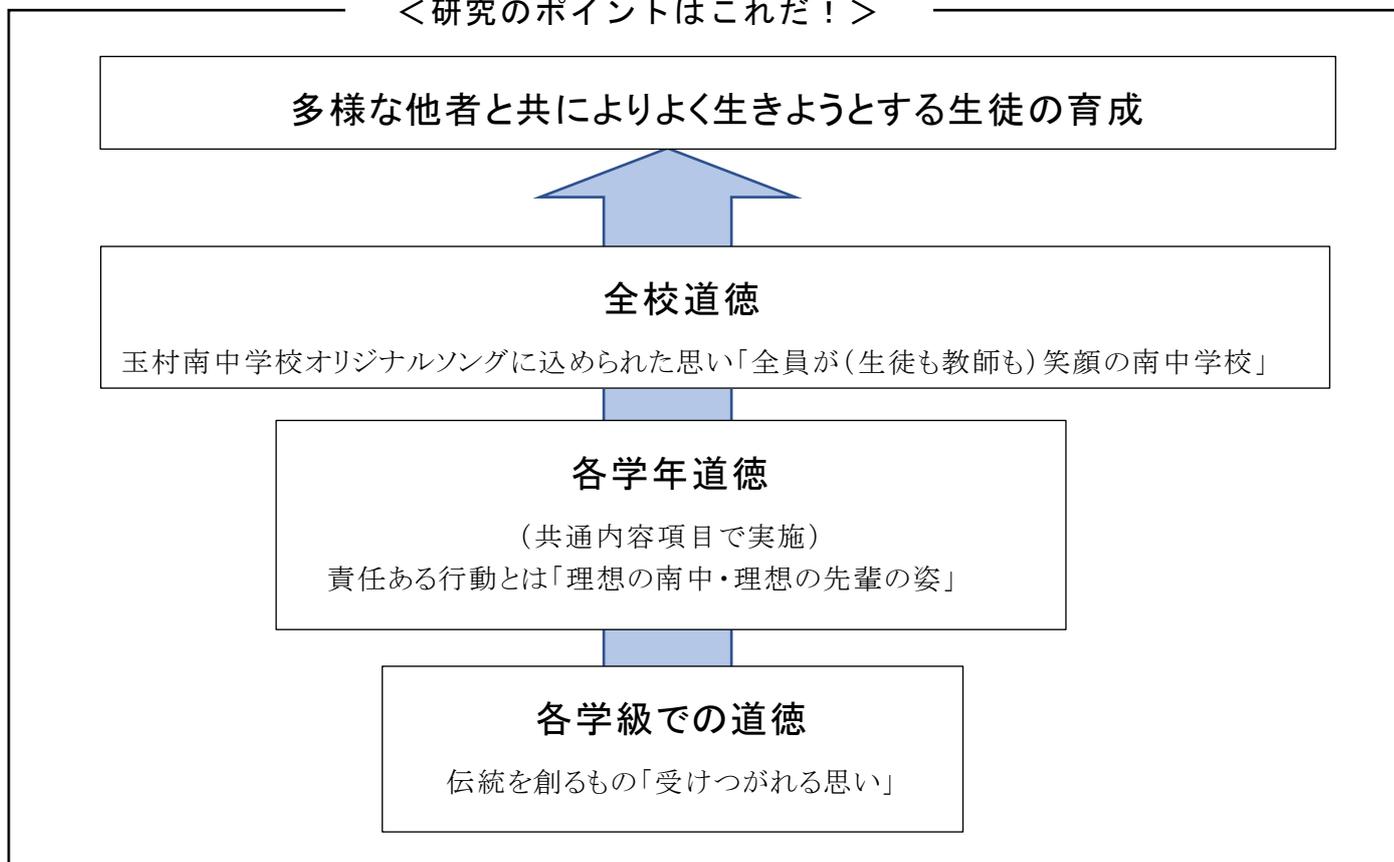
→ <https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000876770.pdf>

# 多様な他者と共によりよく生きようとする生徒の育成

—全校道德と授業実践を通して—

玉村町立南中学校 中村 百恵

< 研究のポイントはこれだ！ >



## 1 主題設定の理由

令和5年度より玉村町立南中学校は、群馬県非認知能力育成研究校として様々な実践を試みている。複数担任制の実施や生徒会活動の充実、全校学活への取り組みなどである。その一つとして、全校道德を昨年度から実施してきた。昨年度実施した全校道德では、学年の壁を越えた「たてわり班」を活用し、一つの題材に対して、様々な学年の生徒が自分の意見を話したり聞きあったりした。それぞれの学年からの意見は、生徒自身の発達段階や知識・経験によって異なり、題材についてより深く、そして多面的・多角的に考えるきっかけとなった。

平成30年度より全面実施となった「特別の教科 道德」の中では、「考え、議論する道德」への転換が求められてきた。全校道德や学年道德は、そうした道德教育を具現化するための一つの方法へと成り得るのではないかと考えた。仲の良い友人や、同じ学級の生徒の意見だけでなく、様々な生徒と関わり合い意見を伝えたり聞いたりすることは、生徒自身が主体的に物事を捉え、多面的・多角的に考える力を醸成することにつながるのではないだろうか。そうした授業実践を通して、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を目指したい。また、全校道德や学年道德を通して、道德授業の広がりについて、試行錯誤しながらも、研究したいと考え、このような主題を設定した。

## 2 研究のねらい

全校道德や学年道德を通して、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を目指した道德授業についてどんな成果や課題があるかを明らかにしていく。

### 3 研究の内容

- (1) 昨年度の全校道徳の実践
- (2) 今年度の「他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を目指した道徳授業」等の方向性
- (3) 学級での道徳の実践
- (4) 学年道徳(3年)・全校道徳の実践

### 4 実践の概要

#### (1) 昨年度の全校道徳の実践

##### ①題材名

さくらさんの悩み～みんなにとって良い学校にしたいけど～(NHK for school)

##### ②指導内容

C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実

##### ③教材について

高校生のさくらさんは、校則を変えれば、1人1人がより個性を出せる学校につながるはずだと考え、行動を起こす。みんなにとって良い学校とは何かを考えるきっかけとなっている。

##### ④ねらい

さくらさんの姿を通して、よりよい学校をつくるとはどういうことなのかを異学年との意見交流を通して考え、多様な考えがあることに気づき今後の生き方を見つめる。

##### ⑤成果

- ・「校則」を題材として扱ったテーマが、本校で行っていた校則改定の動きと重なり、生徒自身が問題意識をもって、自分との関わりの中で題材を考えることができた。
- ・異学年との意見交流を行うことによって、様々な価値観や考え方に触れ、物事を広い視野から多面的・多角的に考えるきっかけとなった。

##### ⑥課題

- ・生徒にとって身近な話題であったことから、生徒自身がそれぞれの考えを持ち、その考えを伝えることができたが、それぞれの意見に対して質問したり意見を深めたりすることは難しかった。
- ・評価の仕方について疑問が残った。

#### (2) 今年度の「他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を目指した道徳授業」等の方向性

昨年度の成果と反省を生かし、以下の表のように道徳の授業等を実施した。まず、昨年度の実践より、生徒にとって身近に感じられる題材を扱い異学年で意見交流を行うことは、「他者と共によりよく生きようとする生徒の育成」につながると考えた。また、今年度主として取り扱う指導内容であるC15「よりよい学校生活、集団生活の充実」に関して、学習指導要領には次のような記述がある。「生徒が教師や先輩、級友、後輩との信頼関係を築き愛情をもって接すること」「生徒の活動の場である学校はそれぞれ一様ではなく独自の校風がある。これを後輩たちが協力しあって継承し、さらに発展させより良い校風創りをしていくことが大切である。」「特別活動における学校行事の儀式的行事で学校への所属感を深めた後や、文化・体育的行事において学校や学級での自らの役割や責任を果たした後などに、よりよい校風作りや集団生活の充実について考えるなど、他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。」以上の記述より、特にC15「よりよい学校生活、集団生活の充実」について、道徳的価値に迫るためにも全校で交流する「全校道徳」を実施することになった。

昨年度の実践の課題点としては、意見を活発に伝えあうための雰囲気づくりが難しいという点があったため、まずは3年生が題材に関して理解を深め、それぞれの考えをもった上で全校道徳に臨めるよう指導計画を立てた。

実施時期	主題・題材名等	指導教科等	指導内容等
5月	生徒総会	学校行事	オリジナルソングを作りたい、という意見が出る。
5月	オリジナルソングの提案	生徒会活動	生徒会本部より全校生徒へアンケートの協力をお願いを行う。
夏休み中	全校生徒へアンケートの実施		オリジナルソングに入れたい歌詞やメロディーを募る。
9月30日～	伝統を創るもの「受けつがれる思い」	道徳 (3年生/各学級)	C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実
10月9日 17日	責任ある行動とは 「理想の南中・理想の先輩の姿」	学年道徳 (3年生)	A(1) 自主、自立、自由と責任
	47年に感謝を込めて	(2年生)	C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実
	全校一を目指して	(1年生)	C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実
10月21日	玉村南中学校オリジナルソングに込められた思い 「全員が(生徒も教師も)笑顔の南中学校」	全校道徳	C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実
11月1日	合唱祭	学校行事	
10月25日	全校学活「理想の南中について考えよう」 ～【全員が笑顔】を超えるためには?～	全校学活	新生徒会のスローガン(=オリジナルソングのタイトル)を考える

### (3) 学級での道徳の実践

#### ① 主題名

伝統を創るもの

#### ② 題材名

受けつがれる思い

#### ③ 指導内容

C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実

#### ④ 教材について

主人公たちはサッカー部のない中学校に入学したが、広いグラウンドでサッカーをしたいという気持ちから、新しくサッカー部をつくる活動を始める。うまくいかないサッカー部の活動の中で、友達の言葉や他校との試合を通して、サッカー部の活動の意義や自分の役割に気づいていく。引退した主人公たちは、彼らの活動に対する思いを後輩たちに託そうとする。

#### ⑤ ねらい

悩んだり、あきらめかけたりしながらも、最後までサッカー部の活動をつづけた主人公たちの姿を通して、互いに協力し合い励まし合ってよりよい校風創りに努めようとする意欲や態度を育てる。

## ⑥成果(生徒のワークシートより)

中心発問「オリジナルソングに込めた思いとは何だろうか。」

この歌を通して全員が笑顔になってほしいという思い。  
一生に一度しか味わうことのできる南中の3年間も、この歌とともにいつまでも心に留めてほしいという思い。卒業するときに全員が笑顔で終われるようにという思い。

全校生徒が1つになって、よりよい南中を作る。学年の壁をなくし、全員が笑い取り、卒業しても、入ってくる1年生と受け継いでほしい。  
全員が笑顔に輝くその姿をほしい。・全校が1つになってほしい。  
・全員が笑顔でいられる理想の南中をつくる。・全員が同じ方向をむく。

本当に全員が笑顔であるように、学年全員が楽しく歌ってほしい  
という思いでまたこの歌が引き継がれていて、また全員が笑顔  
を聞いて、将来元気をもらえるといいなと思いました。全員の  
理想が詰まった希望の歌になったほしいという思いです。伝  
統は多くの方が語って広がっていくものだと思うので、受け継いでほしいです。

教材「受けつがれる思い」のサッカー部の様子と自分たちの「オリジナルソングを作りたい」という思いが重なり、教材を通して南中の校風を振り返り、それを後輩に受け継いでいきたいという意欲や態度を育てることにつながった。

## (4) 学年道徳(3年)・全校道徳の実践

### ①主題名

全員で創る理想の南中

### ②題材名

「玉村南中学校オリジナルソング」に込められた思い ～全員が(生徒も教師も)笑顔の南中学校～

### ③指導内容

C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実

### ④教材について

よりよい学校生活を目指すために「全員が笑顔」というスローガンを生徒会が立てている。そのスローガン近づくために、「玉村南中オリジナルソング」を全校生徒で作ることが提案された。玉村南中の校風を踏まえ、学校をよりよくしていくためにはどんなことが大切かを生徒自身に考えてもらい、歌詞を募った。その後、玉村町出身の音楽家の方々に作曲等を依頼した。その後、学年道徳では歌詞の意味を考えたり、実際に歌ってみたりすることを通して最上級生としての自覚を持ち、自校独自の校風を継承していけるよう意識を高めた。全校道徳では、作詞・作曲の方々を招き、オリジナルソングに込められた思いを聞いたり、質問したりした。生徒自身も、オリジナルソングを作ろうと思ったきっかけや歌詞に込めた思いを話し合った。

### ⑤ねらい

玉村南中オリジナルソングに込められた思いについて、作曲者や異学年との意見交流を通して考え、理想の玉村南中学校やよりよい学校生活を創り上げようとする意欲や態度を育てる。

### ⑥生徒の振り返り(「理想の南中学校に向けてどのようなことをしていきたいか。」)

- ・他の学年の人とも(無所属で年上と話すことができないので)全校学活や全校道徳でたくさん話そうと思います。(1年生)
- ・自分なりの意見を考え、いろいろな人と意見を共有し、どのようなことをしたら学校がより良くなるかを考え、その課題に対して協力して解決したいと思います。(2年生)
- ・学年、クラスだけでなく、学校全体が仲良しで楽しい学校、思いやりがある学校(2年生)
- ・エネルギー、自分の思い、気持ちを大切に歌っていきたくです。「南中学校オリジナルソング」一人だけが歌うのではなく、南中全員が全力で一人もかけずに歌いたいです。理想の南中学校にしていくために、まずは学年の壁をこえることが大切だと思いました。そのために、「南中学校オリジナルソング」のように全校で話し合い、協力し何かをやり遂げることが大切だと思いました。他学年との交流をたくさんしていきたいです。(2年生)

- ・「全員が笑顔」を何年後・何十年後・何百年後と続いていくように。そして、オリジナルソングも続いていくようにしたい。
- ・生徒会の人たちが、学年の壁を越えての交流を増やしてくれているので、積極的に他学年の人とも話して、みんなが自分の意見を発言できるような空気を作っていきたいです。(3年生)
- ・今まで受け継がれていた伝統を次の学年につなげていく。オリジナルソングを心を込めて歌ったり、全校学活や全校道徳で真剣に向き合う。(3年生)
- ・オリジナルソングをつくった理由である、学年の壁をなくせるように他学年と交流したり、全員が笑顔でいられるように、オリジナルソングの歌詞を意識したりしながら生活していきたい。(3年生)
- ・僕達3年生はこの南中で過ごす時間も短くなってきましたが、後輩やその次に入学してくる新1年生が毎日楽しく過ごすことができる学校にしていきたいです。(3年生)

## ⑦成果

学級での道徳から、学年での道徳、そして学校全体での道徳へと学びの輪を広げていくことによって、生徒が道徳の授業の目的意識を明確に持ちながら授業に取り組み、「よりよい学校生活、集団生活の充実」という価値項目に迫ることができた。特に、生徒の振り返りから見られるように「学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくる」という点において、成果が見られた。また、他学年との交流を行う全校道徳を行ったからこそ「独自の校風を協力し合って継承し、よりよい校風作り」を目指そうという意識が高まったのではないかと考える。3年生においては、読み物教材「受けつがれる思い」を通して学習したことから、これまでに培われてきたものを後輩へと繋げていきたいという思いがより強く感じられた。学習指導要領には、他教科や行事との関連について明記されているが、今回は合唱祭の練習期間にこの道徳を行ったことで、題材に対する思いを強く持ちながら向き合うことができた。



## ⑧課題

歌詞に込めた思いを伝えあう場面では、生徒が意見を伝えづらい場面も見られた。職員の振り返りからは、「3年生が(発言などにおいて)リードしようとしてくれたが、1, 2年生は発言しづらい様子だった」といった意見や「朝の時間などに統一してオリジナルソングを歌う時間を設けることで、もう少し歌詞の意味や込められた思いに触れてから全校道徳があってもよかった。」といった意見が見られた。

## 5 研究の成果と今後の課題

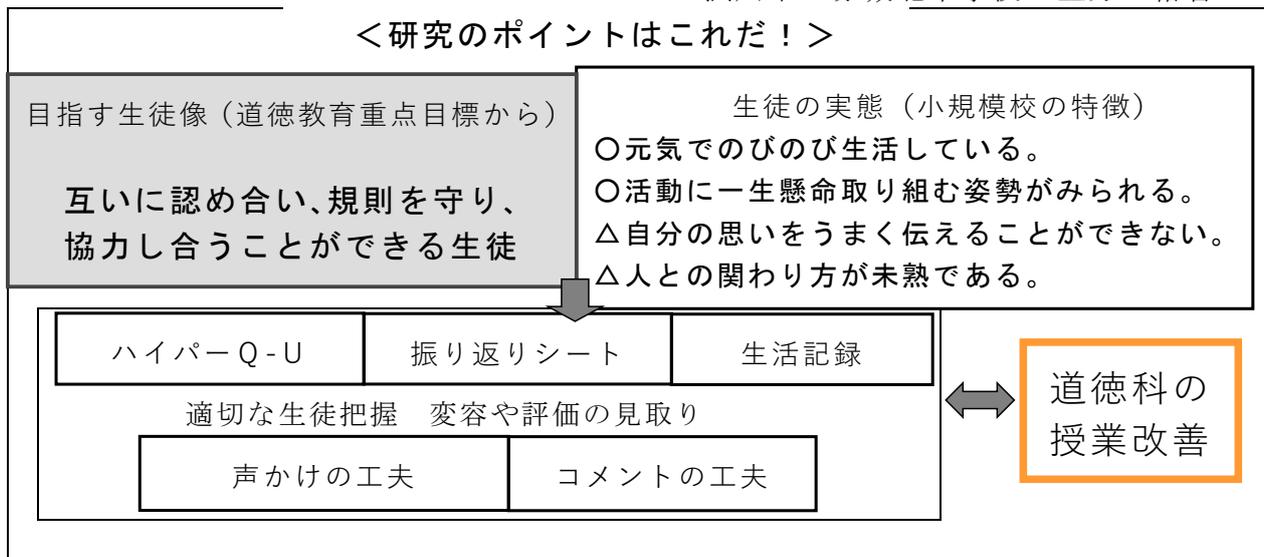
今回、全校道徳を始めとした授業実践を通して、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を目指した。学年の垣根を越えて一つの教材を学ぶことで、普段の学校生活の中で関わり合いのない生徒同士が考えを述べたり聞いたりする場が生まれた。そのことにより自分自身の考えを深め、他者へと意識を向けるきっかけとなった。特に、今回取り扱った価値項目「よりよい学校生活、集団生活の充実」に対しては成果が見られた。自校独自の校風を継承していくことやよりよい学校生活を目指していくことに関しては、一つの学級や学年だけでは成し得ないことである。学年道徳や全校道徳を行ったことで、よりよい学校生活を目指していこうという意欲や態度が育成されたのではないかと考える。また、「他教科と関連した授業を積極的に行っていく」という視点から見ても成果が見られた。道徳と学活を結び付けることで、道徳の時間に身に着けた道徳的実践力を学活において生かすことを試みることができた。このように学年道徳や全校道徳を行うことは、道徳授業の広がりを持たせることにつながるのではないかと考える。課題としては、一人一人が発言しやすい雰囲気づくりなどが挙げられる。学年道徳や全校道徳を行う前に、十分に教材研究を行い全体計画を立てた上できめ細やかな配慮や授業づくりが必要である。日頃から、道徳を始めとした授業の中で、自分の言葉で意見を伝えられるような力を各教員が意識して指導していくことも大切であると感じた。また、今回扱った価値項目以外でも、そうした「他者と共によりよく生きようとする生徒の育成」につながるかについてはさらなる研究が必要である。

## 6 参考文献

- ・文部科学省「中学校学習指導要領 解説『特別の教科 道徳編』」, 2017年7月, 54, 55ページ
- ・NHK for school, ‘さくらさんの悩み～みんなにとって良い学校にしたいけど～’,  
[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005130367\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005130367_00000)

# 道徳的価値の理解をもとに自他を大切に作る生徒の育成 — 評価につながるQ-Uや振り返りシート、生活記録の活用を通して —

渋川市立赤城北中学校 生方 裕香



## 1 主題設定の理由

本校では、今年度の学校スローガンとして「自信、自他愛、自主自律を育てる学校」を掲げている。生徒の実態としては、小学校の時からほぼ同じメンバーで過ごしてきた少人数の集団（全校62人、各学年一学級）であり、お互いに気心知れた仲間で構成されている。新学期でも過度な緊張感は比較的少なく、精神的に安定した生活を送ることができる反面、行動規範の定着にやや不十分な生徒も見受けられる。また、人間関係の変化がないからこそ、自己主張ができる生徒と自分の思いがうまく伝えられない生徒の二極化が見られ、他者と本音で向き合えない状況もうかがえる。そしてそれらが、学級生活や対人関係への不安や不満を抱く原因にもなりやすいと考えられる。

本校の校内研修では「次時に繋がる振り返りシートの工夫」に取り組んでいる。道徳でも「道徳振り返りシート」を活用しており、1枚シートに蓄積されていくので、同じ内容項目の授業の振り返りが比較でき、評価に生かすことができる。また、本校では、年に2回、ハイパーQ-Uを継続して実施しており、学級経営の参考にしている。目には見えにくい学級や個人の現状が可視化できるため、その後の学級経営、特に学活や道徳で何を題材に取り上げると有効であるかがわかりやすい。しかし、せっかく学校全体で取り組んでいる、「振り返りシート」、「Q-Uの結果」、「日々の生活記録」がそれぞれ個々に一人歩きしているのが現状である。それぞれを相互に活用すればもっと生徒の変容がつかみやすく、個々の評価も的確なものになるのではないかと考える。そして個に合った評価ができればもっと自分に自信が持てたり、相手を尊重できたりして、良好な人間関係が築けるのではないかと考え、本主題を設定した。

## 2 研究のねらい

「振り返りシート」「Q-Uの結果」「生活記録」を相互的に活用することを通して、生徒の変容を把握し、個々への的確な評価につなげていくとともに、生徒の自他愛を高めていく。

## 3 研究の内容

- (1) ハイパーQ-Uの分析（実態の把握）とそれをもとにした授業実践
- (2) 校内研修のテーマである「振り返りシートの活用」（実態の把握とコメントの工夫）
- (3) 生徒が記入している「生活記録の活用」（実態の把握とコメントの工夫）

4 実践の概要（対象学年：1年生）

(1) ①「ハイパーQ-Uの分析」

1学期のQ-Uから21人中3名が「学級生活不満足群」、2名が「侵害行為認知群」に属している。対人関係に不安感を抱いていたり、学級の中で孤立感を抱いている生徒がいることがわかった。そこで内容項目が「B 主として人との関わりに関すること」にあたる教材に重きをおいて取り上げていくことにした。

②授業実践

中学道徳 あすを生きる1（日本文教出版）

	教材名	内容項目	主題名
6月	「近くにいた友」	B主として人との関わりに関すること B-(8) 友情、信頼	心から信頼できる友達
10月	『自分だけ「余り」になってしまう…』	B主として人との関わりに関すること B-(9) 相互理解、寛容	お互いを認め合う

展開『自分だけ「余り」になってしまう・・・』

時間	過程	学習活動	学習支援
7分	導入	<p>1 ペアをつくり余りが出る場面を体験する。普段の生活体験を振り返り発表する。</p> <p>『遠くの人とペアを組んでみよう』 『今のような余りの経験はないかな』 『どんな気持ちでペアを組んだかな』</p> <p>「余りの一人」を分かち合う気持ちを考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアづくりでは余りになってしまった生徒が不安に感じずに活躍できるように配慮する。</li> <li>・考えることを明確にするために本時のめあてを提示する。</li> </ul>
36分	展開	<p>2 教材『自分だけ「余り」になってしまふ』を読み、考える。</p> <p>『好美さんと僕の友達で自分の考えに近い方の気持ちを選び、そう思う理由を付箋に書いて交流しよう』</p> <p>【個人】 好美「一人は恥ずかしいな」 僕の友達「一人でも平気」</p> <p>【グループ交流】 「そんな考えもあるんだな」 「でも私はいやだな」「大人だな」</p> <p>3 余りの人を分かち合うとはどういうことなのかを話し合い、どんな考え方が大切か考える。</p> <p>『どうしても余りが出てしまうときはどんな気持ちが必要なのだろう』</p> <p>【グループ討議】 「自分の都合で考えちゃだめだね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好美さんと僕の友達の状況を整理する。</li> <li>・自分の考えを色別の付箋に書いて視覚化する。</li> </ul>



		「余った人を気にかけてあげる優しさ」	・グループの意見をまとめ黒板に掲示することでさまざまな意見を共有できるようにする。
7分	終末	4 話し合ったことをもとに自分の考えをまとめる。 『どんなことをこれからの生活に生かしていきたいですか?』 5 もう一度ペアを作ってみる。	・数名に発表してもらう ・初めのペアづくりの様子とどんな変容が見られたか見取る。

(2) 「振り返りシートの活用」

- ・「近くにいた友」の振り返りシートから

達成度	例
ア 42%	相手に信頼してもらうには日頃から正しい行動をしたり、相手の見ていないところでもよい行動をするとよいと思った。相手に信頼してもらえて、相手を信頼できる人になりたいと思った。
イ 42%	これから相手が嫌がることを初めからしないでもし何かあったらしっかり話し合おうと思いました。
ウ 16%	相手への対応を間違えると疑われたり信頼されなくなったりすることが分かりました。

ア：現在の自分を振り返り、自らの行動や考えを見直している。道徳的価値の実現を自分事として捉え、考えようとしている。

イ：道徳的価値の実現を自分事として捉え、考えようとしている。

ウ：教材の読み取りだけになっている。

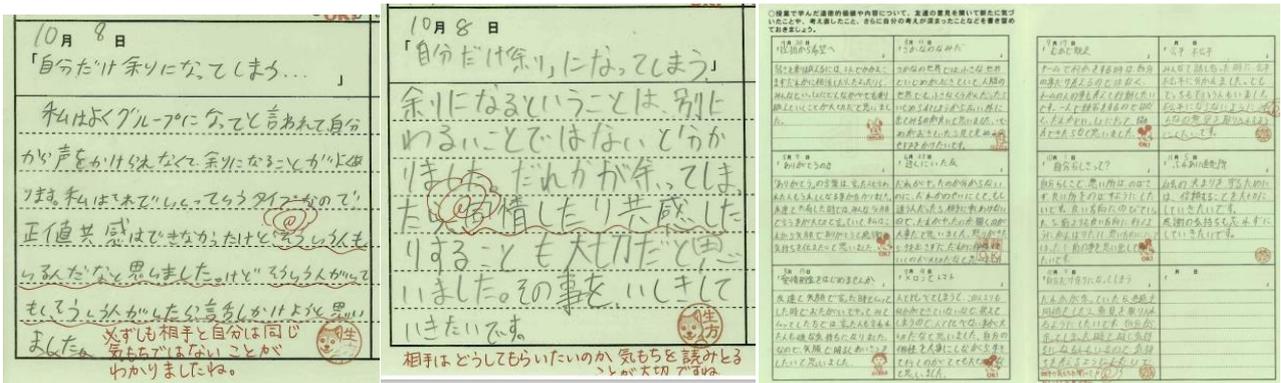
1学期は生徒の考えに対する教師側のコメントを書くことが少なかったため、2学期はコメントを必ず添えて、生徒の考えを認めたり共感したりするように心がけた。

- ・『自分だけ「余り」になってしまう・・・』の振り返りシートから

達成度	例
ア 50%	私はよくグループになってと言われて自分から声をかけられなくて余りになることがよくあります。私はそれでいいと思うタイプなので正直共感はできなかったけれどそういう人もいるんだなと思いました。でもそういう人がいたら話しかけたいと思いました。
イ 50%	今回の話で奇数で遊びに行ったときに特定の人だけ余りにしないようにすることが大切だと思いました。相手の人のことも考えて行動することが大切だと思いました。

ア：現在の自分を振り返り、自らの行動や考えを見直している。道徳的価値の実現を自分事として捉え、考えようとしている。

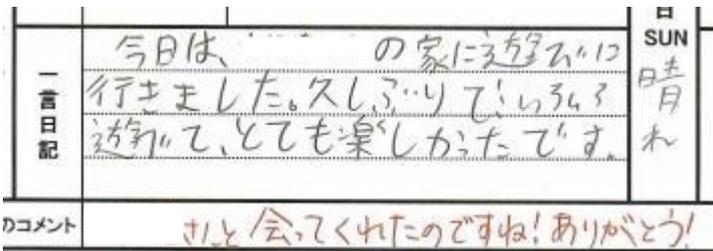
イ：道徳的価値の実現を自分事として捉え、考えようとしている。



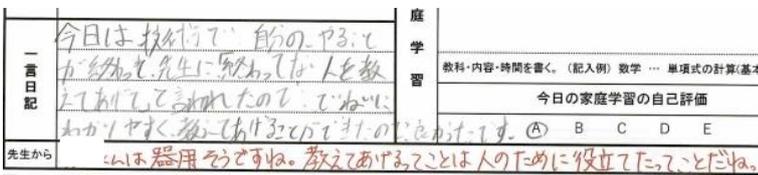
授業の感想と振り返りシート

(3) 生活記録の活用

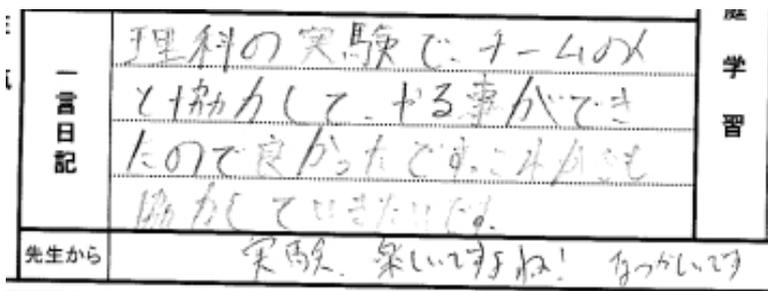
生活記録の中の「ひと言日記」を確認する際に、道徳的視点で読むことを意識した。そして生徒の道徳的価値の理解が深まっていると読み取れる感想を賞賛し、評価につなげていくとともに、今後も価値が高まるようなコメントを書いていくように心がけた。



不登校傾向の友達を気にかけている内容。孤立しがちな友達を思いやる優しさがうかがえる。



技術の授業で作業が遅れている友達を手伝ってあげたという内容。相手への思いやりが感じられる。



理科の授業で協力して実験を行ったという内容。人との関わり方が円滑であることがうかがえる。

5 研究の成果と今後の課題

【成果】

- 研究を行うことにより、「ハイパーQ-U」、「振り返りシート」、「生活記録」を道徳的視点で分析する教師側の意識が高まった。
- 「ハイパーQ-U」の分析から、学級の現状にあった教材の価値選択に活用することができた。
- 「振り返りシート」から各時間の評価を見取るだけでなく、年間を通じて個々の生徒の道徳

的価値の深まりを見取ることができた。

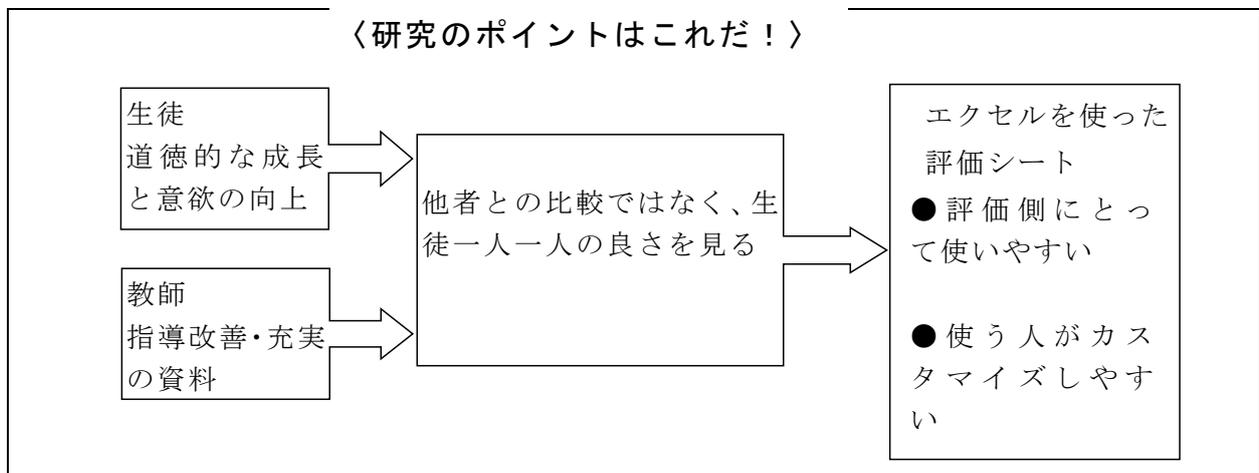
- ・「振り返りシート」と「生活記録」を関連付けながら見ていくことにより、道徳授業後の日々の生活の中での生徒たちの道徳的価値の深まりを確認することができた。

#### 【課題】

- ・当初は1学期と2学期の「ハイパーQ-U」の結果から道徳授業後の生徒の実態の変容も確認しようと思っていたが、2学期のハイパーQ-Uの結果が間に合わなかったため、後期の結果を踏まえて、さらに教材選択や道徳的価値の理解が深まるような手立ての工夫を考えていきたい。
- ・評価の際に生徒自身が今まで行った道徳授業の中から一番道徳的価値の理解が深まったと思う教材を選択する形式を取っているため、生徒が思う自己評価と教師側が考える評価にずれが生じる場合がある。学校全体として道徳の評価の仕方を再検討し、共通理解を図る必要がある。
- ・職員全体で評価方法について共有し、道徳の授業後の生徒たちの道徳的価値の理解の深まりが見とれるように、学校全体で取り組めるような「道徳コーナー」を設置するといった工夫が必要である。

# 誰でも簡単に適正な評価を行うための評価シートの工夫 ～持続可能な評価の仕組み作りを目指して

太田市立城西中学校 新井 律雄



## 1. 主題設定の理由

道徳の評価とはどのように行うべきかは、常に教師を悩ませてきた。指導要領の解説によると、「評価とは、生徒にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。」と記されている。さらに、「他者との比較ではなく生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、……生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが重要」とも書かれている。そのことに加え、通知表にも道徳の評価を載せていくことから、保護者にとっても分かりやすく、学習の成果が伝わりやすい文言であることが求められる。

あと一つ評価に関わる要因として、評価の母体が複数いるということがある。道徳を学年や学校の教員でローテーションにより代わる代わる担当する体制になると、一人の教師が生徒の評価をするのではなく、複数の教師が一人の生徒の評価を行うことになる。そういった点を踏まえ、より効率的に以上の要因が叶えられるような評価の方法を考えていかなければならない。そういったことから、より効率的な評価の方法を構築することが今回のテーマを設定した理由である。

## 2. 研究のねらい

本研究を通して、誰でも簡単にしかも一人一人の生徒にあった評価をできるようなシートを作成することが本研究のねらいである。そのシートでは、汎用性があるだけでなく個々の教員がシートの内容を工夫して変更できることが重要であると考え。そのことにより、絶えず評価シートを改善、更新していけるものであることが重要であると考え。

## 3. 研究の内容

- (1) 評価シートの作成
- (2) 評価に関わる生徒による振り返りシートの作成、見直し
- (3) ワークシートの作成、保存

#### 4. 実践の概要

(1) 「ミライシード」の「オクリンクプラス」を使ったワークシート、振り返りシートの作成

今までは右の資料1のような振り返りシートを使っていたが、それを「オクリンクプラス」というアプリを使ったものに変更することを考えた。その利点としては、

- ①授業の経過（生徒の変容）がわかる
- ②最後の生徒の感想をアプリ上で残すことができる。（紙の無駄を省ける）※資料2
- ③意見の集約ができ、生徒にフィードバックすることができる。※資料3

道徳 R6 NO.3

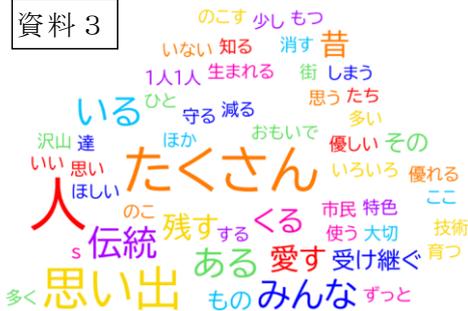
年 組 番 氏 名 資料1

### ふりかえりシート

～心の成長を記録しよう～

		ふりかえり		先生の確認印
1 回	日付	資料名		
		内容	担当教諭	
2 回	日付	資料名		
		内容	担当教諭	
3 回	日付	資料名		
		内容	担当教諭	

資料3



資料2

たくさんの人に受け継がれてきたから

市民のみんなが優しい。

美味しいものが多い。

みんなに愛されてるから

昔の人の思い出を残したいから。

(2) 評価シートの作成

①まず考えたことは、文章の構成である。生徒に評価として伝える内容を、どのような文章構成にしたらいいか。一つ目として、道徳の時間の全体でどのような道徳的心情を養い、道徳的判断力を身につけ、それを実践に結びつけたかということ。二つ目としては、道徳的に最も高い到達点を示した単元で、どのような変容を見せたのかを具体的に表現することである。かつ、それを表現するのに簡単な方法でできることも重要な要因の一つであった。以上のことを「生徒一人一人に応じた」表現でできることを目指した。

そこで、資料4の○に見られるように、授業の態度や道徳性をまずはA～Iの9つのジャンルに分けた。その中で、到達度順に3～7種類の到達度を示し、生徒一人一人に対応できるようにした。（※資料4）ジャンルについては資料5に示した通りである。

資料4

資料4		これから生き方を深く考え、よりよい生き方を目指している
E	1	人としてより良い生き方を実現すべきだと分かっているが、それができない自分があることも認識しつつ、それを乗り越え、実現している
	2	人として望ましい生き方の実現が難しいことを認識しているが、心の弱さを乗り越えつつ実現していこうとする意欲が感じられました。
	3	社会の中で、人としてより良い生き方・在り方を理解するとともに、それらを実現することの難しさも理解していました。
	4	登場人物に共感しつつ、自分だったらどうすべきか、よりよい生き方とはどのような生き方なのかを真剣に考えていました。
	5	これまでの自分の生き方を見つめ、これからの自分とはどのような生き方をしたいかを考えるようになってきました。
	6	これからの生き方で、何を大切に生きていこうかを考えられるようになってきていました。

二つ目の項目である各単元での「変容の様子」については次ページの資料6で示している。

★使い方★

① 学習状況の欄にA～Iのアルファベットと上の1～7から対応するものを選び。(C、D列)

【道徳性の項目】

- A:学習中の態度に変わる宇柄    B:多面的多角的思考に変わる宇柄    C:道徳的価値を自分宇として捉えられる
- D:自立的思考に変わる宇柄    E:これからの生き方を深く考えよりよい生き方を目指している
- F:道徳的価値に照らして、これまでの自分を見つめる姿勢    G:自分と異なる考えや感じ方を理解
- H:学んだことをこれからの生活に生かそうとしている    I:他者の気持ちや立場が理解できる。

② 授業で最も道徳性が高まった資料名を選び。(F列)。

③ ②で選んだ教材での到達度(下の表)によって1～3の数字をG列に入れる。※H列には式が入っているので、絶対に触らない。

※網掛けになっているところはいじらないようにしてください。

資料5

ここでも、生徒一人一人の到達度の違いに対応して、3つの中から最も近いものを選ぶようになっている。最も高い到達度を示したものが1であり、以下2、3の表現も選べるようになっている。

資料6

1	「風を感じて一村上清加のチャレンジ」	1 9	困難に直面しても、目標の達成に向けて前向きに挑戦し続ける主人公の生き方を通して、目標に向けて強い意志を持ち、前向きに努力していこうとする気持ちを持つことができました。	2	目標の達成に向けて努力することの素晴らしさを感じ取り、自身も目標に向かって頑張ろうという前向きな思いを持つことができました。	3	目標の達成に向けて努力することの素晴らしさを感じ取りことができました。
2	「郷土を彫る」	1 1	郷土への思いを深める「私」に共感し、郷土の伝統を大切に、郷土に尽くした先人に尊敬の念を深め、郷土の発展を考えるようになりました。	2	郷土への思いを深める「私」に共感し、郷土の一員としての考え方や行動の仕方について考えを深めることができました。	3	郷土のよさについて、改めて考えることができました。
3	「決断！ 骨髄バンク移植第一号」	1 0 ③	悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命の大切さに気づくことができました。	2	田中さんの生き方に共感し、自分の「いのち」と他の人の「いのち」について考えを深めることができました。	3	自分の「いのち」と他の人の「いのち」について考えを深めることができました。
4	「ごみ箱をもっと増やして」	1 2	街にごみ箱を増やすかどうかの話し合いを通して、公徳心について理解を深め、だれもが気持ちよく生活できる社会を実現させるためにはどうしたらよいか考えることができました。	2	街にごみ箱を増やすべきかどうかの話し合いを通して、よりよい社会を築くためのルールやきまりについて考えることができました。	3	ごみ箱の設置をテーマにして考えることで、社会で必要なルールやきまりについて考えることができました。
5	「短文投稿サイトに友達への悪口を書く」と	2 1	悩みや葛藤をともに乗り越え、互いに励まし合い、友達と心から信頼できる関係を築くことについて、自分の問題として考えることができました。	2	悩みや葛藤をともに乗り越え、友情を深めていくことの大切さに気づき、互いに励まし合い、心から信頼しようとする気持ちを持つことができました。	3	主人公の悩みや葛藤を友達とともに乗り越えた体験を通して、友情を深めていくことの大切さに気づくことができました。

資料4

《評価シートの全体図》

資料5

名簿	態度・道徳性	教科名	理解度	評価文
1	C 3	「短文投稿サイトに友達への悪口を書く」と	2	「自分だったらどうするか」について考え、自分とのかかわりで考えや意見を述べる姿がみられました。「短文投稿サイトに友達への悪口を書く」との授業では、悩みや葛藤をともに乗り越え、友情を深めていくことの大切さに気づき、互いに励まし合い、心から信頼しようとする気持ちを持つことができました。
2	A 3	「郷土を彫る」	2	発言を積極的に行い、主体的に学習に取り組んでいました。「郷土を彫る」の授業では、郷土への思いを深める「私」に共感し、郷土の一員としての考え方や行動の仕方について考えを深めることができました。
3	C 3	「決断！ 骨髄バンク移植第一号」	3	「自分だったらどうするか」について考え、自分とのかかわりで考えや意見を述べる姿がみられました。「ごみ箱をもっと増やして」の授業では、ごみ箱の設置をテーマにして考えることで、社会で必要なルールやきまりについて考えることができました。
4	B 3	「ごみ箱をもっと増やして」	2	自分の考えと異なる友達の見解にふれることで、自分の思いや考えをより広げ深めることができました。「決断！ 骨髄バンク移植第一号」の授業では、田中さんの生き方に共感し、自分の「いのち」と他の人の「いのち」について考えを深めることができました。
5	A 4	「短文投稿サイトに友達への悪口を書く」と	3	友達との悩みや葛藤を乗り越え、互いに励まし合い、心から信頼しようとする気持ちを持つことができました。「ごみ箱をもっと増やして」の授業では、街にごみ箱を増やすべきかどうかの話し合いを通して、よりよい社会を築くためのルールやきまりについて考えることができました。
6	B 4	「ごみ箱をもっと増やして」	2	自分と異なる友達の見解や考えに共感し向き合い、しっかりと聞いていくことができました。「ごみ箱をもっと増やして」の授業では、街にごみ箱を増やすべきかどうかの話し合いを通して、よりよい社会を築くためのルールやきまりについて考えることができました。

資料6

資料7

以上を資料5の使い方に従って評価文を作成したものが下の資料8である。

資料8		態度・道徳性	教材名	理解度	評価文	
A	1	学級やグループでの話し合いで意欲的に発言し、授業に積極的に臨んでいました。	「ふたつの心」	1	いじめに関係する人たちの心情を考えることを通して、物事をさまざまな角度から総合的に	学級やグループでの話し合いで意欲的に発言し、授業に積極的に臨んでいました。「ふたつの心」の授業では、いじめに関係する人たちの心情を考えることを通して、物事をさまざまな角度から総合的に考え、いじめの本質を見極めようとしていました。
B	4	自分と異なる友達の意見や考えに真摯に向き合い、しっかりと聞いていました。	「郷土を彫る」	2	郷土への思いを深める「私」に共感し、郷土の一員としての考え方や行動の仕方について	自分と異なる友達の意見や考えに真摯に向き合い、しっかりと聞いていました。「郷土を彫る」の授業では、郷土への思いを深める「私」に共感し、郷土の一員としての考え方や行動の仕方について考えを深めることができました。
C	1	自分とのかかわり度とらえた説得力がある発言をし、学級での話し合いの深化に一役買っ	「ごみ箱をもっと増やして」	3	ごみ箱の設置をテーマにして考えることで、社会で必要なルールやきまりについて考えること	自分とのかかわり度とらえた説得力がある発言をし、学級での話し合いの深化に一役買って

## 5. 研究の成果と今後の課題

- ・たくさんの内容を含んでいるので、使う側が取捨選択しながら自分に合う評価シートをつくることができる。
- ・態度、道徳性の項目が多すぎて、選ぶのが大変だが、学期ごとに道徳性の観点を絞ってその項目の中で選ぶようにするなど、方法も考えて使えばいろいろな使い方ができる。
- ・態度・道徳性、理解度とも筆者の基準で並べたが、絶対的なものではないので、使う側が話し合って使う側に合うように並べていけば、使いやすい評価シートを作り上げることができる。
- ・生徒が到達した道徳的価値が、目指すものと内容項目が違ったものである場合にはその到達度が高くても評価できない。
- ・エクセルが不得意な教師にとって、たくさんの式が入ったシートを扱うこと自体に抵抗感がある場合も少なくない。カスタマイズするときにより簡単にと考えてつくってはいるが、そもそもエクセルの仕組みがわからない教師にとってはそれも難しいことに気づいた。

以上のことから、評価表をつくる過程でこの評価表を使うすべての人の話し合いが必要であり、いったん完成した評価表も絶えず加筆訂正が必要であろうと思われる。つまり、評価にかかる時間を短縮し、効率的に生徒個々にあった評価ができるようにするというこの評価表をつくった最大目的は達成することができなかつた。ただ、この形式の評価表で評価することがベストでなくてもベターだと感じる事ができるならば、教科書等が変わってもこの評価表を元に簡単に作り直すことはできるように感じる。

## 6. 参考文献

東京書籍 「年間計画作成資料」 第一学年の道徳指導計画例

## 2年 道徳学習指導案

### 授業の視点

相沢忠洋さんが「僕は、僕の人生を精一杯生きるだけです。」と語った理由を話し合う場面において、相澤さんがひたむきに考古学研究を続けたことについて、クラス全体で意見交流を行ったことは、自分の人生をかけて真理や真実を追求しようとする人の心にせまることとなり、意欲を持って自分の人生を豊かにすることを自覚するのに有効となるであろう。

## I 主題名 生きがいの追求（1－(4)「真理・真実の追求」）

## II 主題設定の理由

### 1 生徒の実態

本学級の生徒は1年3学期に「生きがいのある人生」1－(4)において、「ドイツの考古学者シュリーマンの伝記を通して自分の夢や志を語る手紙を扱った資料から、現実に安易に妥協したり、苦労や困難にくじけることなく、理想をめざして意志と努力で人生を切り拓いていこうとする心情を育てる。」を学習している。

学校生活に目を向けると、学校生活を充実させるために、時間を意識して給食の準備をしたり、授業時間前から準備を進めたりしている様子が見られる。その一方で、授業中に私語やよそ見をして授業に集中しなかったり、放課後すみやかに部活動の活動場所に行かず部活動に専念できていなかったりと、学校生活に充実感を感じていないこともある。全力を傾けて取り組むことで部活動や学業で成果を上げている様子が見られる一方で、失敗することへの恐れや自分を捨てきれないことによる遠慮から、ただなんとなくやっているという様子も見られる。

このような日常生活のみとりから、本学級の生徒の実態を以下のようにとらえた。

- 自分の生活は、自分自身の手でよりよくできるものだ、ということを理解している。また、学年全体で決めた企画を実践することでよりよい生活に変えられた経験も積んでいる。
- 学習や部活動において、自分が立てた理想の実現を目指して真剣に努力し、成果を上げたり実績を出したりしている生徒もいる。
- 不満な点や改善すべき点があったとしても、失敗を恐れて積極的に改善しようとしない、あるいはそのための方策を考えられず改善できない生徒もいる。
- 知識や精神面が未熟であるため、努力する前に投げ出してしまうような発言や行動を繰り返している生徒もいる。

### 2 主題について

本主題は、「真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。」という中学校1－(4)「真理愛、真実の追究、理想の実現」の内容項目を主としてねらうものである。

#### (1) 道徳的価値のとらえについて

中学生時代は、真理を愛し、理想を求めようとする気持ちが強くなる時期である。しかし、実際には、現実の厳しさや、自己の力の限界を意識するあまり、真理や理想を求めようとする気持ちに揺らぎが起こり、困難に直面すると安易に逃れようとしがちである。また、本気で物事に取り組む経験が不足していることから、自分の目標を達成できたことへの喜びや、理想とするものを実現できたときの満足感をあまり体得していないと思われる。そのため、自分が生きている実感や充実している喜びを感じている生徒は少なく、張り合いのある生活や生きがいのある生活を

送ることができていない生徒もいる。このような生徒たちの持つ理想を求めようとする気持ちを延ばし、将来に向かって希望を持って自己の人生を切り拓き、よりよく生きようとする態度を育てることは、極めて重要であると考え。

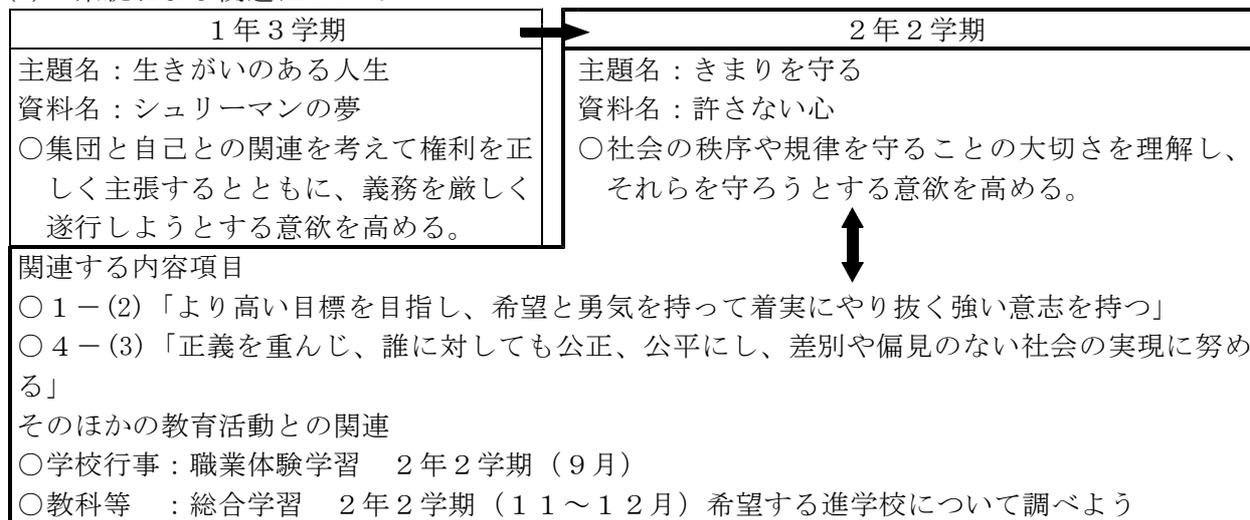
(2) 資料について

「幻の石器を作った人」は、昭和 63 年に東京の福田鉄雄先生が作成、授業実践を行った資料である。本資料では、日本における旧石器時代の石器を始めて発見した相沢忠洋さんの生き方を描いている。少年時代から「太古の生活を知りたい」という願望を持ち、こつこつと研究をしてきた相沢さんは、従来の学説に疑問をもち、探求することによってついに新事実を発見するのである。新事実を発見するまでの真摯な生き方や、新事実を発見してもなお自分の理想の実現を目指し、考古学を通して、心から満足できる生きがいを追求しようとする相沢さんの生き方に触れさせることによって、ねらいに迫りたい。

(3) 資料を扱う際の構想について

この読み物資料を用いて、まず、石器を発見したときの相沢忠洋さんのことをどう思うか発表し合う。次に、「僕は、僕の人生を精一杯生きるだけです。」と語った相沢忠洋さんについてどう思うか話し合いを進めていき、本主題の道徳的価値に迫っていきたい。

(4) 系統および関連について



### III 指導計画

事前の指導	○相沢忠洋という人物について、或いは彼が発見した遺跡や考古学研究について、相沢忠洋記念館館長や岩宿博物館館長の講話を聞き、詳しく知るとともに、興味関心を高める。
本時の指導	○日常生活を振り返り、本主題の道徳的価値への方向付けをする。 ○読み物資料の範読を聞いて、相沢忠洋という人物と、その功績をどのように受け止めたかについて意見交換する。 ○ひたむきに理想の実現を貫くという意見と、様々な障害の前にくじけてしまうという意見を照らし合わせながら、考古学研究を続けた相沢忠洋さんの真意にせまる。 ○相沢忠洋さんの「僕は、僕の人生を精一杯生きるだけです。」という発言から本主題の道徳的価値にせまる。 ○理想の実現について考えたことをワークシートに記述することで自分自身への振り返りとし、本時の学習で行った意見交換の内容について整理できるようにする。
事後の指導	○学級通信や道徳通信を利用して、授業の様子を家庭に知らせていく。 ○本主題について実践している姿を見取り、賞賛していく。

#### IV 指導方針

○事前指導では

- ・総合学習の時間のみどり市出前講座や相沢忠洋記念館館長講話から学んだことをワークシートにまとめ、知識として整理するとともに、学級通信でも特集することで興味関心へとつなげる。

○導入の部分では

- ・特に部活動等で実績を上げている生徒を指名し、結果を出すためにどれくらいの努力を積んでいるのか発言させることで、本授業への生徒の興味・関心を引き出し、意見が言いやすい雰囲気を作れるようにする。

○展開前半では

- ・石器を発見したとき、「考古学なんかやめてしまいなよ」と言われたときの相沢さんについて、それぞれどう思うか考える場面では、なぜそう思うのか、具体的に述べさせることで、より深くとらえられるようにするとともに、意見を聞いた生徒が自分の考えをより具体的なものへと変質できるようにする。

○展開後半では

- ・相沢さんが「僕は、僕の人生を精一杯生きるだけです。」と言ったことについて考えさせる場面では、相沢さんがそう発言するに至った理由となることについても具体的に述べさせることで、相沢さんの生き方により共感できるようにする。

○終末では

- ・理想の実現について考えたことをワークシートに記述することで自分自身への振り返りとし、本時の学習で行った意見交換の内容について整理できるようにする。

○事後指導では

- ・本主題の道徳的価値に対してよさが表れてる様子を見取り、個別及び集団への賞賛を行う。また、その後の変容や改善について、学級通信でも各家庭に情報発信し、家庭における賞賛にもつなげる。

#### V 本時の学習

1 ねらい

考古学における自分の考えを信じる相沢忠洋さんは、世間の風評や貧しい生活にも負けず、研究を続けて新しい発見をした。そんな相沢さんの相沢さんの生き方への共感を通して、真理を愛し、理想の実現を目指し、心から満足できる生きがいを追求しようとする心情を深められるようにする。

2 準備 読み物資料（「幻の石器を作った人」）、ワークシート、掲示用写真

3 展開

過程	学習活動と生徒の意識	時間	指導上の留意点
導入	1 部活動等で功績を挙げている生徒に、どれくらい努力しているのかを発表させる。 ○知らないところで努力しているんだな。 ○がんばっているんだな。	5	○発表者に共感し、その努力を認めることで、教室内に意見を言いやすい雰囲気をつくれるようにする。 ○発表者に全員に通る声で意見を述べさせるとともに、聞く生徒に姿勢を整えさせることで、確かな意見交流の場となるようにする。
展開	2 「幻の石器を作った人」を読む ○困難に負けずに研究を続けてい	10	○朗読前に、相沢さんの肖像や、実際に発掘された石器を掲示することで、これから読む話に出

	<p>たんだな。</p> <p>○自分の生き方を貫けるのはすごいな。</p> <p>3 相沢忠洋さんについての意見交流を行う。</p> <p>①石器を発見したときの相沢さんについて、どう思うか。</p> <p>○苦労しつつも見つけることができてよかった。</p> <p>○そこまで情熱を傾けられるのがすごい。</p> <p>②「考古学なんかやめてしまいなよ」と言われたときの相沢さんについて、どう思うか。</p> <p>○いやになってあきらめてしまうと思う。</p> <p>○大変な思いをしてでも続けてきたのだから、あきらめてほしくない。</p>	<p>5</p> <p>1 0</p>	<p>てくる内容を把握できるようにする。</p> <p>○意見交流は、挙手と意図的指名の両方を使い分けることで、生徒の意欲を受け止めつつ、生徒が自分の意見を具体的に考える元となる発言を引き出せるようにする。</p> <p>○発言の際は、前の生徒の意見に対するつなぐ言葉を意識させるようにする。</p> <p>○①は、生徒の意見を意図的に深く聞くことで、一つのことをやり遂げたという成就感、充足感に触れられるようにする。</p> <p>○②は、生徒の意見に対し、逆説的な問いかけをすることで、苦境にも負けず考古学の研究を続け、そこに生きがいを見いだしている相沢さんの心情を把握できるようにする。</p>
<p><b>③相沢さんが「僕は、僕の人生を精一杯生きるだけです。」と語ったことについて、どう思うか。</b></p>			
	<p>○かっこいい生き方だと思う。</p> <p>○自分の生きがいにまっすぐ向かっているので、尊敬する。</p>	<p>1 0</p>	<p>○③は、生徒にそう思った理由や根拠について述べさせることで、生徒の意見を具体化するとともに、相沢さんの生き方への共感をより深められるようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>4 本日の授業の感想をワークシートに書く。</p>	<p>1 0</p>	<p>○本字の授業で考えたことをもとに、相沢さんの生き方について自分の意見を書き、また自分のことに置き換えて心から満足できる生きがいを追求したいという心情を深められるようにする。</p>

**【評価項目】（評価方法）**

○最後の感想に、相沢さんの生き方についての共感が書かれている。また、自分のことに置き換えて心から満足し生きがいを追求していこうとする心情が書かれている。（ワークシート）

# 1年 道徳学習指導案

## 授業の視点

話し合いの後半において、作者が力強く生き続けようとする姿やそれを支える周囲の存在、作品に込められたメッセージをもとに、作品を介した人々の支え合いに視点をおいて話し合いを進めたことは、自他の生命を尊重し、精一杯生きることのすばらしさに気づく上で有効となるであろう。

## I 主 題 名 精一杯生きることのすばらしさ 3-(1): 「生命の尊重」

### II 主題設定の理由

#### 1 生徒の実態

本学級の生徒は、小学校での道徳「人命の尊重」において「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」ことについて学習している。また、1学期の理科「植物の世界」においても、植物の生命活動の仕組みを調べることで、植物の生命と自然環境との深いかかわりを学習してきた。

学校生活のなかでは、生徒自身が生命の尊さについて改めて深く考えたり、実感したりする機会は多くはないが、生徒の多数は命を軽視するような表現に対して、他人を傷つけるものとして好まなかったり、なかには注意できたりするものも増えてきた。また、十月に行われた体育大会では、精一杯取り組むことのよさを感じることができた生徒も多い。その一方で、毎日の学習や部活動の忙しさに追われ、二度とはない自分の人生を精一杯生きようと意識しながら生活できている生徒は少ない。つまり、生命を尊重することの重要性を頭では理解しているものの、実感的なものとしてとらえられていないと思われる。これらのことから、本学級の生徒の実態を以下のように捉えた。

- 生命活動が、精巧な仕組みや自然環境との複雑なバランスのなかで成り立っていることを理解している。
- 力を尽くして精一杯ものごとに取り組むことの喜びや楽しさに気づいている。
- 生命を軽視する言動を慎み、他を大切にしようとする態度が身に付いている。
- 普段の生活の中で、生命の尊さについて意識しながら生活できている生徒は少ない。

#### 2 主題について

本主題は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」という中学校3-(1)「生命の尊重」を主としてねらうものである。

##### (1) 道徳的価値のとらえについて

生きとし生けるものの生命を尊重する態度を育てることは、人間が社会性をもって生きていくための基礎であり、道徳教育においても重要な要素となっている。この考え方をもとにして、互いに人間としてかけがえのない生命が与えられていることに喜びと感謝の念をもち、生きることにも価値を見出し、自他の生命を大切にしようとするよう努める生徒を育てる必要がある。

現代の日本社会においては、物質的に不自由のない生活が当たり前となり、精一杯自分の命を生きること、努力して自分の人生をより良いものとしていくことに価値を見出しにくい環境になっている。この時期の子どもたちがもっている生命の価値についての認識の多様さは、そのような自分の命の価値への認識の差がそのまま表れているように思われる。二度とない自分の人生や

命の価値に気づいていない子どもや、自分の命を大切に思ってくれている人がいることに気づいていない子どもが、他者の命を尊重する意識をもつことは困難なことである。そのような子どもたちに、かけがえのない命や生命の偉大さ、自他の生命について尊重する気持ちをもてるようにするため、精一杯生きることのすばらしさに気づかせることが大切であると考え。

(2) 資料について

資料については、「花に寄せて」を使用する。この資料では、死に直面した作者(星野富弘氏)がこれを乗り越え、極めて重い障害に負けることなく、生命のある限り強く生き続けようとする姿が描かれている。極限状況にありながら、強く美しく生き抜こうとする作者の姿や作品に込められたメッセージを通して、命の限り精一杯生きることのすばらしさに気づかせたい。

(3) 資料を扱う際の構想について

この読み物資料を用いて、まず、作者の生き方やそれを支える周囲の人々の姿から、かけがえのない命の尊さについて考えさせる。次に、星野富弘氏の作品がそれを見た人々に感動や勇気を与えていたことについて、富弘氏も作品を介して他者から支えられているという視点で話し合いを進めることで、本主題の道徳的価値に迫っていきたい。

(4) 系統及び関連について

1年2学期	1年3学期	2年1学期
主題名：精一杯生きることのすばらしさ 資料名：花に寄せて ○かけがえのない命の尊さを自覚し、人間としての誇りをもって精一杯生きることの大切さに気付く。	主題名：生きることの大切さ 資料名：見沼に見る星 ○生命の尊さ、重さに心を開き、限りある生命を精いっぱい燃焼し、常に前向きに生きていこうとする心情を養う。	主題名：新しい生命 資料名：妹に ○かけがえのない自他の生命の尊さを理解し、喜びと感謝の念をもって生き抜こうとする心情を育てる。
関連する内容項目 ○1－(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」 ○2－(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」 ○3－(3)「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。」 ○4－(6)「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。」 その他の教育活動との関連 ○教科等：理科 1年1学期 植物の世界		

Ⅲ 指導計画

事前の指導	○短学活や合唱コンクールのなどの時間を利用して、本主題に関わる話題を取り上げ、道徳的価値への関心を高めておく。
本時の指導	○資料のあらすじ等を確認していくことで、主発問をつかめるようにする。 ○星野富弘氏の作品を介した人々の支え合いに視点をおいて話し合いを進めることで、道徳的価値の理解を深めるようにする。 ○普段の生活を振り返らせることで、自分とのかかわりで道徳的価値を考えられるよ

	うにする。 ○考えたことをもとに大切だと思ったことをワークシートに書かせ、本時の授業を振り返れるようにする。
事後の指導	○本主題について実践している姿を、学習や部活動への取組などからみとり、そのすばらしさを認め、伝えていく。

#### IV 指導方針

- 事前指導では
  - ・短学活や合唱コンクールの時間などを利用して、ものごとに取り組む姿勢についての話題を取り上げ、本主題の道徳的価値への関心を高めておく。
- 本時の導入では
  - ・日常生活を想起させながら、道徳的価値への方向付けができるようにする。
- 展開前半では
  - ・資料の範読後に、あらすじなどを確認していくことで、作者の成功は本人の強い意志や努力だけではなく、作者を支えていた存在にもよるものであることに気づくことができるようにする。
  - ・星野富弘氏の作品を介した人々の支え合いに視点をおいて話し合いを進めることで、道徳的価値の理解を深めるようにする。
- 展開後半では
  - ・導入で発表されたことをもとに本時の道徳的価値に照らして、自分とのかかわりで道徳的価値を考えられるようにする。
- 終末では
  - ・本時の授業で考えたことをもとに大切だと思ったことをワークシートに書かせ、本時の内容を振り返れるようにするとともに、実践への意欲につなげるようにする。
- 事後指導では
  - ・短学活等で、学習や部活動などに対する取り組み方が向上した生徒の姿をみとり、そのすばらしさを認め、伝えていく。

#### V 本時の学習

##### 1 ねらい

作者が力強く生き続けようとする姿やそれを支える周囲の存在、作品に込められたメッセージをもとに、人々の支え合いについて話し合いを行うことをとおして、精一杯生きることのすばらしさに気付く

##### 2 準備 副読本「中学道徳1明日をひらく」(東京書籍) ワークシート 提示用資料

##### 3 展開

過程	学習活動と生徒の意識	時間	指導上の留意点
導入	1 日常生活を想起する。 ○精一杯やっていることと言われると、ないかもしれないな。 ○部活動は、頑張っているな。 ○合唱コンクールは金賞を目指して精一杯頑張れたな。	5	○普段精一杯やっていることについて自由な発言を促し、本主題への方向付けができるようにする。 ○資料に生徒の地元に関わりの深い星野富弘氏が登場することを告げ、読み物資料への関心を高めるようにする。

<p>展開</p>	<p>2 富弘さんを支えるものについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体が思うように動かないなんてかわいそう。</li> <li>○字だけでも大変なのに絵まで描けるようになるなんて、たくさん努力したのだろうな。</li> <li>○展覧会が成功してよかったな。</li> <li>○上手ではない作品まで残らず売ってしまったのはすごいな。</li> <li>○富弘さんの作品に感動した人がたくさんいたのだな。</li> </ul>	<p>30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の範読後に、あらすじや登場人物の置かれている状況を確認していくことで、主発問を生徒の言葉からつかめるようにする。</li> <li>○あらすじや登場人物の置かれている状況を確認する際には、場面絵を用いたり、星野富弘氏が初めて書いた字やこれまでの作品を提示したりして、内容把握をしやすいようにする。</li> </ul>
<p><b>主発問①：作品を見た人はなぜそんなに感動したのだろうか。</b></p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○体が不自由なのに、頑張って描いた絵だったから。</li> <li>○障害に負けずに頑張っている姿をすごいと思ったから。</li> <li>○作品から富弘さんの心の強さが伝わってきたから。</li> <li>○富弘さんの母や花へのやさしさに感動したから</li> <li>○富弘さんの一生懸命生きようという強い意志をすばらしいと感じたから。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問に対する考えをワークシートに書かせることで、自分の意見をもてるようにする。</li> <li>○ワークシートの内容をみとり、意図的な指名を織り交ぜることで、多様な感じ方や考え方を表出できるようにする。</li> <li>○表出された考えについて、他の生徒に問い返すことで、考えをより深められるようにする。</li> </ul>	
<p><b>主発問②：富弘さんがここまで頑張ってこられたのはなぜだろうか。</b></p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○富弘さん自身が強い意志で頑張ったからだと思う。</li> <li>○口で絵を描くことは一人ではできないから、家族（母親）の支えが一番大きかったのではないかな。</li> <li>○お医者さんや看護師さんもいなければ無理だったな。</li> <li>○展覧会を見に来たお客さんや、絵を買った人も富弘さんを勇気づけたな。</li> <li>○展覧会が成功して、星野さんもまた頑張ろうという気持ちになれたのではないかな。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○3～4人の小グループで意見交流をさせることで、考えをもちにくい生徒の意見の広がりや深まりを促す。</li> <li>○生徒から出された感じ方や考え方を整理して板書し、星野氏を支えた存在がある一方で、星野氏の生き方が周囲の人を勇気づけていることに気付けるようにする。</li> <li>○板書を見て感じたことを発表するよう促し、互いに支え合って生きることが星野氏のやさしさや強さ、精一杯の生き方にもつながっていることに気付けるようにする。</li> </ul>	

	<p>3 自分とのかかわりで道徳的価値を考える。</p> <p>○自分は富弘さんほど、頑張っているとは言えないな。</p> <p>○健康な体なのに、毎日だらだらと過ごしていたかもしれないな。</p> <p>○星野さんを見習って一生懸命取り組めることを見つけないな。</p>	10	<p>○導入の際に出された精一杯やっていることについてもう一度考えるように促し、自身の生活を振り返って、自分との関わりで本主題の道徳的価値について考えられるようにする。</p> <p>○自分とのかかわりが、思うようにイメージできない生徒には、普段の学習や部活動に対する取組を想起させる。</p>
終末	<p>4 本時を振り返る。</p> <p>○今自分にできることを精一杯頑張っ て生きていきたい。</p> <p>○今、当たり前で過ごしている環境を大切に頑張っていきたい。</p>	5	<p>○本時の授業で考えたことをもとにワークシートに感想を書かせ、本時の道徳的価値の内面化を図る。</p>

【評価項目】（評価方法）

○終末での記述に、「今できることを精一杯頑張りたい。」等の記述が見られる。（ワークシート）

### 3年 道徳学習指導案

#### 授業の視点

水の無かった笠懸に用水を引くという大工事を指揮した岡上景能と、その大工事に従事した笠懸の住民たちの功績を知り、岡上景能の視点から、その時の思いを考えさせ、意見を交流させたことは、郷土への思いを強くし、先人たちへの尊敬と感謝の思いをもつために有効であろう。

## I 主 題 名 郷土への思い 4－(8)：「郷土愛 先人への尊敬と感謝」

## II 主題設定の理由

### 1 生徒の実態

本学級の生徒は、2年1学期に「郷土を愛する心」中学校4－(8)において、「郷土の祭りでの出来事を通して、郷土を大切に作る心に気づく」を学習している。

学校生活での普段の様子から、生徒の郷土への意識については、地域社会の共同体意識が薄れるのと同様に、年々低下してきていると感じる。地域の行事に参加はしていても、自分の住む地域社会を「郷土」とであるととらえる意識はあまりない。また、生徒に笠懸の自慢できるところは何かときくと、多くの生徒が岩宿遺跡や富弘美術館などをあげるが、岡上景能や岡登用水についてはあまりあげる生徒がいない。地域の歴史についてもあまり興味を持っていない生徒が多い。

このような様子から、本学級の生徒の実態を以下のようにとらえた。

- 郷土への愛着という面ではそれほど高くはない。
- 笠懸という地域の歴史について、それほど詳しくない。
- 岡上景能についてはある程度知っているが、岡登用水については知らない生徒もいる。
- 他の人への感謝を持つという面では、個々の感じ方に差がある

### 2 主題について

本主題は、「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」という中学校4－(8)「郷土愛、先人への尊敬と感謝」を主としてねらうものである。

#### (1) 道徳的価値のとらえについて

今日地域社会は都市化や過疎化によって愛着や郷土意識が希薄になっている傾向がある。しかし、地域社会のもつ教育力があらためて強調されているように、地域社会の自然や文化は、子どもたちの成長にとって大切な環境である。その環境の中で、生徒は少なからず、地域の人々と関わって生活している。郷土によってはぐくまれた伝統と文化に触れ、体験することによって、そこに住むことの喜びが生まれ、地域社会の一員としての自覚がもてるようになり、郷土を大切に作る心や態度もはぐくまれる。

この頃の生徒たちは、自我の意識が高まり、ともすれば自分だけの世界に閉じこもったり、自分だけで存在していると考えがちである。このような傾向を考えると、生徒が自分だけで存在しているのではなく、「家族」や「地域社会に尽くした先人」によって自分が支えられていることを自覚して、その先人の努力によって築かれ守られてきた郷土の自然や文化を、感謝の念をもって受け継ぎ、さらにその発展に尽くそうとする心を育てることは、とても意義のあるものと考えこの主題を設定した。

#### (2) 資料について

資料については、自作資料を使用する。この資料は笠懸の地に用水を引いてくるという大工事を指揮した代官・岡上景能の功績とその後の笠懸の住民についてまとめたものである。この読み物資料のあらすじは以下のとおりである。

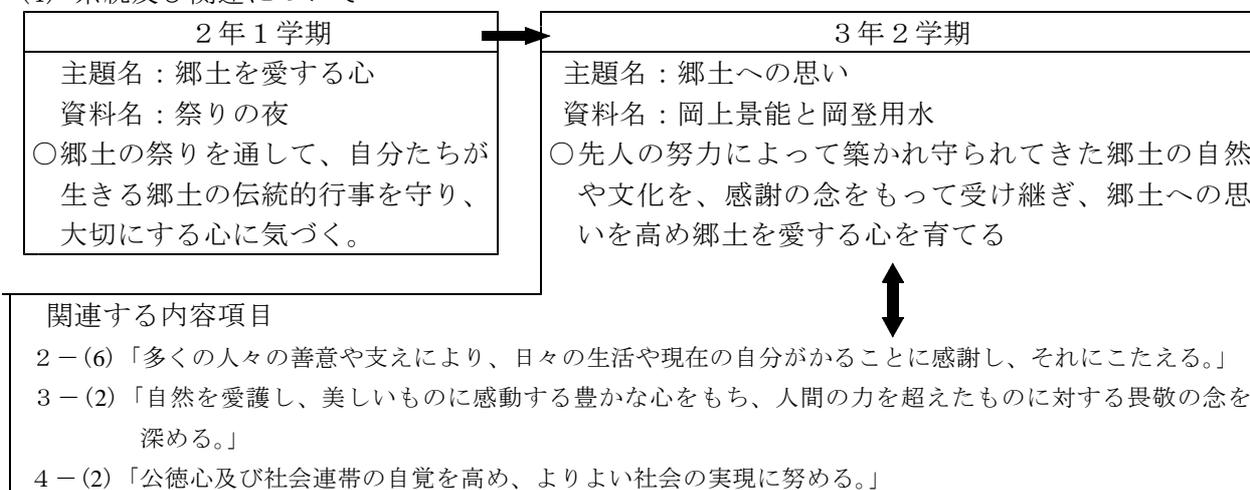
もともと水が無く荒地が多かった笠懸野に代官岡上景能が赴任し、大工事が始まる。岡上景能は工事用の道具もあまりなかった時代に、堅い岩をくり抜いて、水を通すための大工事を村人と共に歩いていく。下流の住民との確執がありながらも、何とか用水が開通する。しかし、用水の利権問題や公金問題などがもとで岡上景能は幕府に切腹を申しつけられてしまう。

この資料は笠懸の歴史資料をもとに自作した資料である。その当時の出来事をできるだけわかりやすく説明した内容にして、生徒にも当時の様子が見えやすいように配慮してある。牢獄の中で岡上景能は何を考えたのか、村人達への思いはどうであったのかこの資料をもとに考えさせたい。生徒はこの資料から先人たちの郷土への思いとそのための努力を知り、郷土のために尽くす姿から、郷土を愛する心を感じとり、生徒自身にも郷土への思いを抱かせる資料となっている。

### (3) 資料を扱う際の構想について

この資料を用いて、まず、岡上景能が行った事業について確認する。そこから、地元の住民や岡上景能がどんな思いで笠懸の地に水をもってきたのかということを中心に話し合う。次に、出された意見や考えを基に自分たちが生きる郷土についての思いを語らせて、本主題の道徳的価値に迫っていきたい。

### (4) 系統及び関連について



## III 指導計画

事前の指導	○社会などの授業を通して、本主題に関わる話題を取り上げて、郷土に対する意識を高めておく。
本時の指導	○岡上景能の事業を振り返り、道徳的価値への方向付けをする。 ○読み物資料の内容を確認し、主発問「岡上景能はどんな思いで用水を引いて来たのだろう」をつかむようにする ○牢獄に入れられた岡上景能の思いを考える事により、郷土への思いを感じ取らせるようにする。 ○これから自分たちは、どんな思いをもって郷土と共に生きていくのかということを考えさせて、本時の学習を振り返るようにする。
事後の指導	○日頃の態度や会話などから、郷土への思いをみとり、先人への感謝している姿を認め、周囲に伝えていく。

## IV 指導方針

- 事前指導では
  - ・社会などの授業を通して、本主題に関わる話題を取り上げて、郷土に対する意識を高めておく。
- 本時の導入では
  - ・校歌の歌詞を導入で使い身近なところにも先人の思いが受け継がれていることに気づかせる。

- ・写真資料等を使い、視覚的にも岡登用水について理解を深められるようにする。
  - ・生徒の既習の知識を引き出しながら、岡上景能の功績についてもう一度確認をさせる
- 展開前半では
- ・主発問に対する考えを発表させて、考えを共有させて話し合いを進めるようにする。
  - ・牢獄に入っていた時の岡上景能の思いを考えさせることにより、郷土への思いを深めさせるようにする。
- 展開後半では
- ・岡上景能が何を伝えたかったのか、考えさせることで、さらに道徳的価値に迫れるようにする。
  - ・出された意見をもとに、自己の振り返りをさせる。
- 終末では
- ・大切だと思ったことや、これから自分はどんな思いをもって生きていくことが大切なのか書くように促し、本時の学習を振り返って郷土への思いを確認する。

## V 本時の学習

### 1 ねらい

岡上景能が、どんな思いで笠懸に水をもってきたのかということを考え、意見を出し合うことを通して、郷土への思いについて考え、先人への尊敬と感謝の気持ちをもつ。

### 2 準備 読み物資料 写真 ワークシート プロジェクター スクリーン

### 3 展開

過程	学習活動と生徒の意識	時間	指導上の留意点
導入	1 校歌の歌詞を思い出させる ○緑ゆたかな ○阿左美の沼の水清く	5	○校歌の歌詞を引用し、現在緑がある笠懸も昔は水の無い土地であったことを知らせる。 ○阿左美沼はなぜつくられたのか発問し、既習の知識を発表させる。 ○岡登用水についてふれて、今日の学習の内容を確認する。
展開	2 岡上景能について考える。 ○岡登用水について知っていることを発表する。 ○江戸時代に岡上景能がつくった。	10	○写真等を利用し、より具体的に彼の行った事業について知ることができるようにする。 ○岡登用水については、写真資料を使い視覚的にも復習できるようにする。
	○笠懸に水がくれば生活が変わる。 ○村人のために水をもってきたかった。 ○村人を助けたい。 ○代官としての仕事をきちんとしたい。	32	○景能の思いが感じ取れるところには線を引かせながら資料を聞くようにさせる。 ○生徒がお互いに顔を見て発言できるように、机の配置を変える。 ○生徒の意見を中心に展開できるように、つなぐ言葉を意識させて発言をさせるようにする。 ○どんなところから景能の思いが感じ取れるか、資料の内容と合わせながら発表させるようにする。
<b>主発問：景能はどんな思いで岡登用水をつくったのだろう。</b>			
<b>牢獄の中で、景能はどんなことを思っただろう。</b>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜ牢獄にいなければならないのだ、くやしい。</li> <li>○下流の住民に迷惑をかけたのだから仕方がない。</li> <li>○用水の基礎を築くことができた、後悔はない。</li> <li>○このまま、用水がなかったら住民の生活が苦しいままだった。</li> <li>○これが私の仕事だ。責任をきちんととるのも代官の役目だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○牢獄にいるときの景能の思いを語らせて、景能の笠懸への思いや自分の仕事に対する思いに迫れるようにする。</li> <li>○後悔やくやしさといった感情や、逆に自分の仕事に誇りをもち最後まで責任をとる景能の本音を考えさせる。</li> <li>○住民達に対する意見が出たら、住民達はどんな思いでいたのか問うようにする。</li> </ul>
<p><b>健二には、景能が何を伝えているように感じたのだろうか。</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○もう一度、笠懸や下流の住民のためになんとかしたい。</li> <li>○この笠懸の地を大切にしてほしい。</li> <li>○今の笠懸の様子を見て安心した、これからも守ってほしい。</li> <li>○笠懸をもっと発展させてほしい。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今まで、あまり地域の事を考えたことは無かったな。</li> <li>○地域の祭や伝統を守れたらいいな。</li> <li>○用水はもちろん、地域の自然も大切にしていかなければならないな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の笠懸をみたら景能はどう感じるか考えさせるようにする。</li> <li>○景能や住民達がどんなことを願っているか考えさせる。</li> <li>○先人の努力に思いを寄せ、それを今後の人々のために、より発展させながら引き継いでいくことの大切さに気付かせる。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>○景能の思いを受け、今まで地域の事を大切にしようとしてきたか問い、自分の生活を振り返らせる。</li> <li>○笠懸町の住民の一人として、大切にしていきたいと思った地域の伝統や文化について考えるように促す。</li> </ul>
<p>終末</p> <p>3 今日授業の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○景能がいたから今の笠懸がある。感謝したい。</li> <li>○景能の恩を忘れなかった笠懸の住民も素晴らしいと思う。</li> <li>○先人が残してくれた笠懸の地を大事にしたい。</li> <li>○今の笠懸があるのは、景能や住民の努力があるからだと感じた。</li> </ul>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○先人たちの思いについて考えたこと、感じたことを書かせるようにする。</li> <li>○今の自分たちに出来る事なども書かせるようにする。</li> <li>○郷土への思いもできるだけたくさん書かせる。</li> </ul>

**【評価項目】（評価方法）**

○終末での記述や意見に「先人への尊敬や感謝・郷土への思い」などの記述がみられる。  
（生徒観察）

## 【道徳の時間の指導】〈発問チェック〉

一般的な指導過程と発問の役割（主に登場人物への自我関与の場合）  
～各指導段階のねらいを達成する発問となるように～

※ 授業の中では、どのような発問をすればよいか。

道徳授業の指導過程に、これと決めて決まった形があるわけではないが、多くの場合、次のような流れで進められる。それぞれの段階のねらいは何かを明確にし、それを達成できるような発問構成を考える。

段階	ねらい	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の雰囲気づくり</li> <li>・資料への導入</li> <li>・価値への導入（価値への方向づけ）</li> </ul>	<p>興味や関心を喚起できるよう写真、調査結果、実物の提示なども利用して短時間に行う。反省や懺悔の発表は避けた方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分と関わりがありそうだ」という意識をもたせる。</li> <li>・「何について考えればよいのか」という視点を与える。</li> </ul>
	<p>〈発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○興味や関心を起こさせる発問</li> <li>○ねらいに関する経験や事実を問う発問</li> <li>○資料に関する発問や説明</li> <li>○考える視点をそろえる発問</li> </ul>	
展	<p>前段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料中の主人公の生き方から、ねらいとする価値を追究し、把握する段階。</li> </ul>	<p>自分と資料を重ね登場人物の心情や判断に着目しながら価値を追求する多様な価値観にふれることが大切</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物に託して自分の気持ちを語らせる。</li> <li>・資料への共感や感動を大切にする。</li> <li>・多様な価値観を引き出し必要に応じて類型化する。</li> </ul>
	<p>〈発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料中の事実や場面、状況を問う発問</li> <li>○登場人物の心情、判断、考え方などについての意見、問題点などを問う発問</li> <li>○児童生徒の発言や反応を生かした発問</li> <li>○自分の考えは、どれに近いのかを問う発問</li> </ul>	
開	<p>後段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を離れ、今までの自分の生活や考え方を見つめる段階。</li> </ul>	<p>価値の自覚を深める中心的な段階で、道徳の授業の最も重要な部分。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前段で追究した価値に照らして、今までの自分、今の自分はどうかを見つめる。</li> <li>・人間としての在り方を吟味し、生き方を自覚する。</li> </ul>
	<p>〈発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ねらいとする価値に関わって、今までの自分を見つめさせる発問</li> <li>※直接経験を問う（～したことがあるか、～について考えたことがあるか）</li> <li>※間接経験を問う（～を見たことがあるか、～を聞いたことがあるか） <ul style="list-style-type: none"> <li>・その時の気持ちや考えを問う</li> <li>・今、そのことをどう思うかを問う</li> </ul> </li> </ul>	
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値の確認、整理、まとめをする段階。</li> </ul>	<p>追求した価値を確認し、行為への意欲づけを図る。余韻をもって終わることも大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごく短時間でまとめるようにする。決意表明や行為の強制には十分注意する。</li> <li>・説話、写真、スライド、音楽、静かに目を閉じて黙考、道徳ノートへの書き込みなどの方法がある。</li> </ul>
<p>〈発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の授業についての感想を問う</li> <li>○自己の変容や気づきについて問う</li> <li>○発問はせずに余韻をもたせて終わる場合もある。</li> </ul>		

## 【道徳参観シート】＜導入＞

### 効果的な導入の工夫（導入の役割と工夫）

※ **導入**は、ねらいとする価値への方向づけをされると言われているが、どのようにすればよいか。

導入の役割		授業の実際
価値への方向づけの例	<p>(1) ねらいとする価値への方向づけ 道徳の資料には、いろいろな価値が含まれている。 → いきなり資料に入ると子供によっては、その時間のねらい以外の価値に興味をもつことがある。 → ある子供は「友情・信頼」の観点から、また、ある子供は「寛容・謙虚」の観点から考えていたのでは学習が深まらない。 <u>それを防ぐのが価値への方向付け。</u></p> <p>①人間の弱さ、醜さに関わる資料の場合 「人間って弱いものだなあ、と思ったことはありませんか？」 ②人間の有限性に関わる資料の場合 「どんなに頑張っても、できないことってあるのでしょうか？」 ③人間の気高さに関わる資料の場合 「危険を顧みずに人命救助をしたニュースを見たことがありますか？」</p> <p>(2) 学習の雰囲気づくり 道徳の授業だけに限ったことではないが、楽しい雰囲気、落ち着いた雰囲気などをつくることは学習意欲の喚起という点で重要。</p> <p>(3) 資料への方向付け 価値への方向付けをしようとする時、展開後段の発問と同じようになってしまう場合などは、資料への方向づけをする。 (例) キャンプ場にある滝の前で、星を見上げながら友情を確かめ合う「星置きの滝」を扱う場合「ゆっくり星空をながめたことがありますか」と問うことによって導入を図るような方法。</p>	
導入のポイント	<p>「自分と関わりのありそうな事だ」、「考えてみる価値がありそうだ」という意識をもたせることが大切。 具体的な方法としては、 ○「経験を問う」 ○「新聞記事やテレビ番組の紹介」 ○「写真や実物を示す」など → 誰もが即答できるような発問により、ごく短時間（3～4分）で行う。</p>	
避けたい導入	<p>×①懺悔で始まる導入 「今までに、過ちを反省できなかった経験はありませんか。発表してください」 ×②くどい導入 「今までに、人に親切にしてあげたことがありますか。」「それはどんなことですか。」「その時、どう思いましたか。」 ×③事柄の羅列に終わる導入 T「くやしい思いをしたことがありますか」 S「たたかれました」 S「無視されました」 S「あいさつをしてくれませんでした」</p>	

## 【道徳参観シート】＜展開前段＞

展開前段は資料をもとに（展開前段のねらいと方法）

※ 展開の**前段**では何をすればいいか。

展開の前段と後段	展開前段のねらい	授業の実際
<p>展開は、授業のねらいを達成するための最も重要な段階。 前段は資料によって、ねらいとする道徳的価値の追究・把握をし、それを一人一人の児童生徒が自覚していく段階。 資料を離れ、自分を見つめる後段と区別される。</p>	<p><b>登場人物と自分を重ねて</b>、その苦悩、葛藤、行為、感動などを共感的あるいは批判的に追究し、ねらいとする価値を把握させる。 「価値の把握」とは、例えば「誠実」であらねばならない、と押しつけることではない。 「誠実」であることの難しさ、素晴らしさを登場人物の言動に即して<b>間接体験</b>しながら、他者を理解し、自分を理解し、人間を理解すること。</p>	
<p>指導方法の例</p>	<p>①資料を読み、教員が用意した<u>基本発問及び中心発問によって価値を追究する。</u></p> <p>②役割演技や動作化により、登場人物の心情を共感的に理解したり、それぞれの立場からの認識を間接経験したりする。</p> <p>③話し合いにより、多様な価値観を引き出し、それを類型化して自分の考えがどれに近いのかを確かめる。</p> <p>④道徳ノートや学習シートに書く活動を取り入れ、自分の意見をより確かなものにしたたり、友達との違いに気付いたりする。</p> <p>⑤絵や心情図などにより、登場人物の心情を表現し検討する。</p>	
<p>指導上意 点</p>	<p>展開前段の指導にあたっては次のような点に留意</p> <p>①資料のどの場面に焦点を当てるかを明確にしておく。</p> <p>②登場人物に託して自分の思いが語れるように発問を吟味する。 (児童生徒が、自分と登場人物を重ねて考えられるよう工夫する)</p> <p>③あらすじを問うような発問は避け、多様な価値観を引き出せるような発問を用意する。</p>	
<p>役割演技について</p>	<p>心理学のサイコドラマと共通する部分が多いが、それを、より手軽に活用しようとするのが道徳教育における役割演技と考えてください。</p> <p>監督（教員、演者、観衆、舞台（現実との境を線などで区切る）が構成要素となる。</p> <p>役割演技には、場面設定だけを行い、あとは演者の「即興性」に任せるものと、資料の筋書きを再現する「動作化」とがあるが、小学校中学年以上なら前者の方が有効。</p> <p>役割演技には、他者の立場が理解できる、相手に対する思いやりの心が育つ、自己認識が深まる、自発的な道徳的行為が促される、マンネリ化した授業を改善できるなどのよさがある。</p> <p>実施するにあたっては、まず、演じやすくするための配慮が必要。舞台を設定することにより、あくまでも演技であって、せりふの内容や行為に関して批判することは適切でないことを十分に理解させる。</p> <p>また、演じさせるだけに終わらぬよう、振り返りや意見交換を重視する。観客も積極的に発言したり、役割交代を行ったりするよう心がける。</p>	

## 【道徳参観シート】＜展開後段＞

自分を見つめる展開後段（展開後段のねらいと方法）

※ 展開の**後段**では、何をすればよいか。

資料から離れる展開後段	展開前段と後段の違いは、資料をもとに考えるか、資料から離れて自分を見つめるかということ。 前段で登場人物の言動に即して追究した価値に照らして、 <u>今までの自分はどうかであったか、これからの人生をどのように生きていきたいかを見つめるのが展開後段。</u>	授業の実際
道徳的価値の自覚を深める展開後段	<p>道徳の時間のねらいは、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成すること。価値の自覚については3段階に分けて考えると整理しやすい。</p> <p>第1段階は、道徳的価値について理解すること。もちろん後段においても価値の理解は行われるが、中心になるのは展開前段。 自己理解、他者理解、人間理解をする第2段階、 価値への憧れや行為への密かな決意をする第3段階は主として展開の後段に行われる。 したがって、展開後段は、道徳的価値の自覚を深める山場と言える。</p>	
どうやって資料から離れるか	<p>実践事例を見ると、資料の追究だけで終わってしまっている例が少なくない。理由としては、前段と後段の役割を明確に把握していないこと、資料から離れるきっかけが作れないことなどが考えられる。</p> <p><u>次の例のようにして資料から離れるといい。</u></p> <p><b>A：直接経験を問う</b></p> <p>①行為のみを問う 「皆さんも、今までに、相手の立場や気持ちを考えて行動したことがありますか。それは、どんな状況でしたか」</p> <p>②行為＋判断 「友達に親切にしたのはどんな時ですか。また、なぜ、そうしたのですか」</p> <p>③行為＋心情 「今までに、何かをやり遂げたことはありますか。その時、どんな気持ちになりましたか」</p> <p><b>B：間接経験を問う（見たり聞いたりしたことを問う）</b></p> <p>Aと同様に3つの形がある。</p>	
指導上留意点	<p>①特に、展開後段においては、自分の経験や思いを安心して話せる雰囲気や仲間の発言を受容的、共感的に受け止められる雰囲気など<b>温かな人間関係で結ばれた学級であることが必要。</b> 各教科等の指導を中心とした学級経営の中で常に心がけていかなければならないこと。</p> <p>②前段に時間をかけすぎて後段の時間がなくなってしまうケースが見られる。<b>少なくとも10分程度の時間は確保</b>する。</p> <p>③自己を見つめるということは、決意表明や懺悔とは異なる。また、即、明日からの実践をねらうものではないから、発問やまとめ方には十分な配慮が必要。</p>	

## 【道徳参観シート】＜終末＞

余韻を残す終末に（終末段階のねらいと工夫）

※ 終末部分の進め方はどのようにすればよいか。

終末の指導を見直そう	授業の実際
終末段階の役割	<p>ねらいとする価値について整理し、確認し、より意識化させる役割を担っている。学級活動のように即、実践を求めるものではない。したがって「今日は、思いやりについて考えた。自分にとって大切なことだなあ」と、児童生徒が自覚して授業が終えられればよい。</p>
指導の方法	<p>(1) 説話 失敗談、葛藤、感動など教員自身のことについて語ることは、児童生徒との人間関係をつくるうえでも、また、共に悩み、共に学ぶ姿勢を示すうえでも大変有効。 (例)「私も、やり始めたことを途中で投げ出してしまうことがよくあります。でも、これだけは続けたいと思っていることが一つだけあります。それがこの日記です」そう言って机の上に、今まで続けてきた日記帳を積み上げました。生徒達の視線は、ノートの山にくぎ付けになりました。これで授業を終える。</p> <p>(2) 道徳ノートに書く 書くことによって自分を見つめ直したり、仲間の考えと比べながら自分の考えを深めたりすることができる。 (例「今日の授業で最も心に残った言葉は何ですか。一言で書いてください」)</p> <p>(3) VTR、音楽を視聴する (例) 不撓・不屈をねらいとして授業を行った後、終末に「箱根駅伝」の1シーンをVTRで流す。そこには、もうろうとする意識の中で、それでも、たすきを渡そうと前進する選手が映し出されている。</p> <p>(4) 黙考する (例) 塩狩峠を扱った授業の終末「乗客を救うために犠牲になった信夫が、最後に考えたことはどんなことだったでしょうか。静かに目を閉じて想像してみましょう」</p> <p>(5) その他 板書の振り返り、新聞記事の活用、ことわざ、児童生徒の作文紹介、心のノートの関連ページの読み合わせなど様々な方法が考えられる。</p>